

令和2年第7回小金井市教育委員会定例会議事日程

令和2年7月28日（火）

午後1時30分開会

開催日時	令和2年7月28日	開会 閉会	1時30分 6時13分	
場 所	小金井市役所第一会議室			
出席委員	教 育 長 教育長職務 代理者	大熊 雅士 鮎川志津子	委 員 委 員 委 員	福元 弘和 岡村理栄子 浅野 智彦
欠席委員				
説明のため出席した者の職氏名	学校教育部長 生涯学習部長 庶務課長 指導室長 統括指導主事 指導主事 指導主事	大津 雅利 藤本 裕 鈴木 功 浜田 真二 丸山 智史 田村 忍 西尾 崇	小金井第一中学校長 緑中学校長 庶務課庶務係長	木下 英典 山中 栄治 中島 憲彦
調 製				
傍聴者人数	44名			

日程	議 題	
第 1		会議録署名委員の指名
第 2	議案第 26 号	令和 3 年度使用中学校教科用図書の採択について
第 3	報 告 事 項	1 その他
		2 今後の日程
第 4	代処第 20 号	職員の分限処分に関する代理処理について

大熊教育長 ただいまから令和2年第7回小金井市教育委員会定例会を開会する。

日程第1、会議録署名委員の指名である。

本日の会議録署名委員は、鮎川職務代理者と福元委員にお願いする。

(委員一同異議なく、上記2名が選出された。)

大熊教育長 次に、日程第2、議案第26号、令和3年度使用中学校教科用図書の採択についてを議題とする。

提案理由について説明を願う。お願いする。

大津学校 提案理由について御説明する。

教育部長 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号の規定に基づき、令和3年度小金井市立中学校使用教科用図書の採択をする必要があるため、本案を提出するものである。

細部については担当から御説明するので、よろしく御審議の上、採択賜るようお願い申し上げます。

大熊教育長 お願いする。

浜田指導室長 令和3年度市立中学校使用教科書の採択についてであるが、小金井市立学校使用教科書採択のための調査研究に関する要綱及び同細目に基づいて調査研究を進めてきた。各学校における調査研究、各学校長から推薦された委員で構成された調査研究委員会における調査研究が行われた。さらに、それらを基に選定調査委員会の正副委員長、調査研究委員会の正副委員長、保護者の代表、教育委員会の事務局等で構成された選定調査委員会で調査研究を行った。

その結果をまとめたものが配付した選定調査資料である。選定調査資料は、各教科、教科書会社ごとに作成している。

どうぞよろしくお願いする。

大熊教育長 ありがとう。

それでは、話し合いを始める前に一言挨拶をさせていただきたい。

この教科書採択に当たっては請願をいただいた。その中で、3つの視点を改善するようという要望であった。資料はすぐに見られるようにしてほしいという形が一つあった。それから、教科書も見られる形にしろ、それから、説明委員は各教科の代表の人に来てほしいということで検討させていただいた。しかし、説明委員のことでだけに関しては、コロナ禍で、このときにたくさんの説明委員をここに呼ぶのはあまり適切ではないと考え、選定委員長、副委員長に代表して来てもらうことにした。それ以外のことは改善し今日を迎えているところである。

しかしながら、十分に審議をしてみたいところであるが、長時間の話し合いは、時節柄、適当ではないと考える面もある。なるべく端的に教科書採択をしていきたいので、委員の皆さん方の御協力をお願いしたい。

それでは、最初に、今回の教科書選定に当たり、教育委員会としての視点を確認したい。

来年度から中学校も新学習指導要領に移行する。その中で、授業改善の視点として、主体的・対話的で深い学びが示された。これは、先行き不透明な社会でもたくましく生きることができる力をつけるためである。

これまで、ややもすると教師主導で行われた授業もあった。子供が事象との出会いによって持った疑問を学級の問題に高め、観察や調査、実験、討議等、試行錯誤を通して問題解決をし、理解を深めていく。そして、子供たちが自分自身の問題解決、過程を振り返り、学びの軌跡を確かめることによって問題解決の手法を明らかにし、次に出会う問題を、果敢に解決できる力を身につけさせたいということが大事である。

ただ単に教科書に出てくる問題が解けるだけではなくて、教科書の問題を解くことを通して身につけた考え方等を次の課題に使える、そういう教科書を選んでいきたい。

子供たちに興味関心を持たせるためには、何より大事なことは、子供たちが主体的にその課題に取り組むことであると考えます。この教科書をつぶさに観察すると、残念ながら、今までの課題先にありきという教科書も見受けられた。しかし、中には子供の興味関心を高めて主体的に問題解決しようという試みが見られる教科書もあ

った。そういう教科書を小金井市としては積極的に選択してまいりたい。そして、そのことを通して、今回の学習指導要領の目指す、主体的・対話的で深い学びが実現できる可能性の一番高い教科書を選択していきたい。

それと、今の小金井の子供たちの実態に合った豊かな学びができる教科書を、前に頂いた教科用図書選定調査資料に基づいて、それを熟読し、教科書を選定していきたいが、この点、いかがか。よろしいか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長 それでは、この視点を改めて指摘させていただいて、教科書の選定に当たっては、この視点にいつも立ち返って教科書を決めていきたいので、よろしく願います。

それでは、選定調査委員長、副委員長に、まず私どもが質問し、お答えいただきたい。そこで理解を深め、その後、協議をしていきたい。協議については、先ほど申したが、新型コロナウイルス感染症の対策からポイントを絞り、効率的に進めていけるよう御協力を重ねてお願い申し上げます。

私どもは選定調査資料を事前に拝見させていただいて、各自で実際に教科書見本を拝見し、研究していることから、教科書各社ごとの説明については、報告書全てではなく、特徴的なところを絞って報告していただければと思うので、全ての教科書でなくて結構なので、特徴的なところを説明していただければと思っている。よろしいか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長 それでは、選定委員長、よろしく願います。

木下校長 選定委員長の木下である。よろしく願います。

それでは、教科の報告に入る前に、選定調査委員会保護者代表の意見をここで報告させていただく。

保護者代表からは、まず、学校の先生たちが教えたことが伝わりやすい教科書、次に、予習、復習を行い、授業で学びを深めると

いった、自分一人でも学習を進められるような教科書、それから、個別の学習やクラス分けをしたときの学習など、生徒一人一人に合った学習ができる教科書などの御意見を頂いている。御了承願う。

まず、国語教科用図書の調査研究の報告をする。

国語教科用図書、全4社である。

国語科においては、言語活動を通して国語で正確に理解し、適切に表現する資質、能力の育成が求められている。4社ともに言語活動を充実できるような工夫が見られる構成となっていた。

まず、それぞれの4社、3点について御説明する。

まずは、東京書籍の教科用図書について御説明する。1、教材としては、昔ながらの名作よりも比較的新しい作品が多く掲載されている。2、文法や言語の教材としての資料、「学びの扉」が分かりやすく示されている。3、本文中の振り仮名が多く、行数の表示が見やすいなどの特徴があった。

次に、三省堂の教科用図書についてである。1、教材としては比較的、昔ながらの名作が多く掲載されている。2、古典の解説が詳しく掲載されていて、漢文の資料が見やすくまとめられている。3、本文の行数が比較的多いなどの特徴があった。

続いて、教育出版の教科用図書である。1、教材としては、昔ながらの名作と新しい作品がバランスよく掲載されている。2、漢字や言語に関する練習問題が充実している。3、行間のスペースが広めにとられていて、文字が大きめで読みやすいなどの特徴があった。

最後に、光村図書の教科用図書である。1、教材としては、昔ながらの名作と新しい作品がバランスよく掲載されていて、説明的文章には新しい作品が多く、グラフや資料を読み取る学習ができる。2、「見通しを持つ」、「捉える」、「読み深める」、「考えを持つ」、「振り返る」といった具体的な目標があり、学習の手立てが分かりやすい。3、比較的、書く活動が多く設定されている等の特徴があった。

報告は以上である。

大熊教育長

それでは、質問のある方は願います。どうぞ。

岡村委員

国語において、言語活動の充実が大切だと言われているが、各教科書ではどのように扱われているか。

大熊教育長 願います。

木下校長 こちらは、1年の初めの、「話すこと・聞くこと」の項目では、教育出版、光村図書においては好きなものを紹介するというスピーチを設定している。一方で、東京書籍と三省堂についてはグループディスカッションを設定している。

「書くこと」の項目では、光村図書が説明の仕方の工夫の後に、「魅力的なプレゼンテーション」という単元を設けていて、「話すこと・聞くこと」と、「書くこと」の項目に関連づけているところが特徴的である。また、意見文の書き方について、教育出版、光村図書においては学習の流れを示している。

以上である。

大熊教育長 ありがとう。

どうぞ。願います。

浅野委員 小金井市は読書活動を活発に行ってきたと思うが、その活動と教科書との関連について教えていただけるか。

木下校長 読書活動との関連は、全ての教科書を取り上げられている。その中でも光村図書においては、文学作品の一部を紹介するなど、生徒の興味を引くような工夫が見られる。

また、三省堂では、「読書の広場」において、読書活動について取り上げている。4社の中で最も多く紙面を割いているのが三省堂である。

以上である。

浅野委員 ありがとう。

大熊教育長 ありがとう。

そのほかの質問はないか。

それでは、これより協議に入る。御意見を願います。どうぞ。

鮎川教育長 中学1年生のどの教科でも一番最初はとても大切な視点だと思う。
職務代理者 小学校からの学習の接続という意味では、どの教科書も工夫が見ら

れてよいと思っている。

その中でも、東京書籍は、1年生の初めの教材の文字がやや大きめに設定されていて、読みやすいと感じた。また、光村図書では、1年生の初めに、言葉に出会うためにという導入部を設け、声を届けるという音読、発表の仕方、書き留めるというノートの取り方が掲載されている点もよいと思った。

以上である。

大熊教育長

確かに東京書籍の最初のページは小学校のフォントと同じ大きさである。あとは小さくなるが、最初は大きな字のフォントを使っていることが特徴だと思った。

ほかはないか。どうぞ。

浅野委員

先ほど教育長からも御説明があったが、主体的・対話的で深い学びということが今回のキーコンセプトになると思う。

それで、深い学びのためには、振り返り、自分がやっていることを見返すことが非常に重要なポイントになってくると思う。その点から各社の教科書を見てみると、例えば教育出版だと、学びナビという形で振り返りが随時入っている。これは結構いいなと思ったし、さらに丁寧にそれをやっているのは光村の教科書かと思う。1年生の教科書も、20ページであるが、見通しを持つという項目から考えを持つという項目まで、順次非常に丁寧な段取りで、自分がどういう学習活動をやっているのかということの一つ一つ捉え返していく深い学びにつながる丁寧な道筋が示されていて、これはとてもいいかなと思った。

以上である。

大熊教育長

なかなか甲乙つけ難い。

ほかはないか。どうぞ。

福元委員

私は光村の説明文がよいと思った。2年の「モアイは語る」や、「君は「最後の晩餐」を知っているか」、3年の「作られた「物語」を超えて」など、学者による、重厚で、根拠と説得力のある文章が掲載されている。

現在、小金井市の中学校の国語の教科書は光村図書を採用してい

る。現行の教科書にも、この3作品は掲載されている。このようなしっかりとした文章を小金井の中学生たちが引き続き読み込むことで、子供たちにしっかりとした読解力を身につけてほしいと思う。

大熊教育長 現行の光村の教科書のよいところを引き継いでいるという感じか。

福元委員 はい。

大熊教育長 ほかにあるか。どうぞ。

鮎川教育長 福元委員から、光村のすばらしさについて
職務代理者 御意見を伺った。

別の観点から、教材の構成や配列も重要と考えている。選定調査資料によると、光村図書は、構成や配列は現行の内容と大きな違いはなく適切であると記されている。このように先生方の視点からも構成や配列が適切であると判断していただいた光村図書はよいと思った。

大熊教育長 分かった。
ほかにあるか。

岡村委員 光村図書の思考のレッスンや情報整理のレッスンが分かりやすいと思った。思考力、判断力、情報活用能力を高めるために非常にいいと思った。

学習した内容、問題、確かめることができるし、重要なポイントを絞って学習できるため、自分の今回身につけた力を他の教材でも生かせるのではないかと思った。光村図書がよいと思った。

大熊教育長 今の問題であるが、光村図書をこうやってペラペラペラとめくっていくと、右側に情報を的確に聞き取るであるとか、情報を整理して書こうとか、話の構成を工夫しようとかいう、情報を読み取ろうというページが右側に全部統一されていて、見やすくて、いわゆる物語だけを勉強するのではなくて、これからどういうふうに周りの情報をとっていったらいいだろうかということ、手に取るように分かるという構成にはなっていると僕も思った。

これを見てから、ほかの教科書を見ると、実は、今のように右側にしっかり出てくる教科書はほかにはなかった。右だけじゃなくて、同じ内容はあるが、左側にいたりして、子供たちにとっては見にくいのではないかなというところがあったり、新しい教科書として、情報を収集することをしっかり書き込んで意識しているのは光村図書が一つ抜けているのかなと思ったが、その辺、見ていただいて、どうか。

ほかの教科書を見ても見つからない。こういうふうに書いてあるところも、別の教科書もあるが、同じような形で書かれているところ、同じようなところでさっと見つかるのはなかなかなくて、構成はよくできているようには僕は思ったが、どうか。そういう感じがしないか。これは後で見ていただいたら分かると思うが、大きな編集の違いだと思った。

浅野委員、どうか。

浅野委員 同感である。私も同じように感じた。

大熊教育長 ほかの委員はどうか。内容的にはそんなに大きな差はないと思うが、今度の、新しく、主体的で対話的で学びたいと思える教材としては、今、一つは流れがつかみやすい構成になっている。それは、先ほど鮎川委員が指摘されたように資料選定の中にも書かれていた。

それから、説明文のよさというのは、先ほど福元委員に指摘していただいた。

それから、僕からは新しい取組の内容が見やすく提示しているという点も、一つ、光村のよさではないかと思うがどうか。

国語の教科書は、その点で光村でよろしいか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長 それでは、国語の教科書は光村図書と決定する。
次に、書写の説明をお願いします。

木下校長 それでは、書写教科用図書の調査研究の報告をする。
国語と同様、全4社である。

書写の指導においては、文字を整えて早く書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育成することが求められている。

4社とも、日常生活に役立てるような工夫が見られる構成となっている。

こちらについても3点ずつ特徴を上げさせていただく。

まず、東京書籍の教科用図書について御説明する。1、小学校の学習を振り返り、自分の書き方を見直すところから始めることができる、2、筆だけではなく、用具ごとの書き方のポイントが説明されている、3、学んだことを話合いにより振り返ることができるようになっているなどの特徴がある。

次に、三省堂の教科用図書についてである。1、各教材が見開きで構成されていて分かりやすい。2、筆の運び方や用具の扱い方の説明が丁寧である。3、教科書のサイズがコンパクトで、書道道具とともに机に置きやすいなどの特徴がある。

続いて、教育出版の教科用図書である。1、基本から始まり、発展的な内容へと学習できるようになっている。2、中学生の写真が多く、親しみやすい。3、毛筆と硬筆の分量のバランスがよいなどの特徴がある。

最後に、光村図書の教科用図書である。1、1年の「字形の整え方」では、はねやはらいが多色刷りになっているため視覚的に分かりやすい。2、誤った筆順で起こる文字の乱れなどが具体的に載っているため、筆順を守る必要性が分かりやすい。3、教科書のサイズがコンパクトで書道道具とともに机に置きやすいなどの特徴がある。

報告は以上である。

大熊教育長

それでは、質問のある方、お願いします。

岡村委員

文字を正しく整えて書くための指導について、各教科書はどのような工夫をしているか。

木下校長

文字を正しく整えて書く指導は4社とも適切に扱われている。特に三省堂は「書き方を学ぼう」で書き方のポイントを示すことで生徒が取り組みやすくなるように工夫をしている。

それから、教育出版は、硬筆において試し書きができるようにしている。

以上である。

大熊教育長 ほかにないか。お願いします。

浅野委員 主体的・対話的で深い学び、また言うが、こういうコンセプトと、イメージの上で結びつきやすい教科と結びつきにくい教科があると思う。書写というのは、どちらかというところと結びつきにくいところがあるかなと私としては思うが、その辺、教科書の工夫はどうなっているか教えていただけるか。

木下校長 こちらについても、4社とも学習の目標を示し、振り返りの場面を設定するというような形で工夫されている。

中でも教育出版を見ると、話合いの内容や学習して気づいたことを記入できるような欄を設けているところが工夫である。

それから、三省堂は「自分の文字を書き残そう」で、1年の学習の始まりと、3年の学習の終わりに同じ文字を書く欄を設けて工夫をしているところが特徴である。

浅野委員 ありがとう。

大熊教育長 ほかにないか。よろしいか。
それでは、これより協議に入る。御意見をお願いします。どうぞ。

浅野委員 4社ともなかなか優れていて優劣つけ難いところがあるように思うが、そのためというわけではないが、やや外形的なところで気になることを初めに申し上げさせていただきたいが、教科書の大きさに少し違いがあるかなという気がする。この辺、机の上に置いたときにどのような影響があるのかが、私としては見ていて気になった点である。

以上である。

大熊教育長 こんな違いがある。机の上に置くとしたら、こっちはちょっと大きいかなと感じる。習字をやるときにいつも狭くなる。中で見てみ

ると、お手本の大きさは実は同じである。このところに何か別のものが書いてあって、この大きさでも、実はお手本の大きさは変わらない。こっちはお手本だけになっていて、こっちはお手本以外のところに説明書きがある。そうすると、お手本としては、大きさはこっちでいいのではないか。使いやすいほうがいい。

ほかにないか。どうぞ。

福元委員

4社とも学習の目標や振り返りの部分があった。

三省堂は振り返りを文章で記入するための欄があったが、他の3社は振り返りについてはチェックや丸をつけるだけであった。文章で記入できるほうが、しっかりと振り返り、次の学習に生かすことができると思った。

大熊教育長

このところに自分が学んだことを書き残そうという欄が三省堂にはあるけれども、ほかの教科書にないということか。

ほかにあるか。どうぞ。

鮎川教育長
職務代理者

どちらの教科書も、書写で学習した内容を日常生活に関連させる場面を数多く取り上げていた。手紙の書き方とか、中学3年生にとって、ほとんどの皆が経験する入学願書の書き方など、たくさん掲載されていた。

その中で、特に特徴的と思ったものを、幾つか挙げる。

東京書籍では、本のポップや職場訪問、三省堂では便箋と封筒や時候の挨拶、教育出版では一筆箋や小包伝票、光村図書では年賀状や入学願書が特徴的と思った。

特に三省堂の日常の書式は、調査選定資料にも記載されているが、資料編、日常の書式の書き方が詳しくてよいとある。必要な部分について、簡潔であるけれども丁寧に説明が記されていると思った。

以上である。

大熊教育長

僕からも一つだけ。

僕は、書道を少しだけやるが、同じ場所を見てみた。こういうものである。これは比較すると2つに分かれる。重きを置いている、2ページを使って大きく書いてある。それから、3ページでおしまいになっている教科書が2つ。重きを置いているところを考えてみ

ると、筆の方向性をしっかり書いてあるのが三省堂と東京書籍である。筆の置き方。これはなかなか教えられなくて、筆の置き方が書いてあるものでいいんじゃないかなと思った。似ているが、ほかのところは違うところに書いてあって分かりにくい。そんなところから見てみると、一番難しい右払いのところに、どういうふうに入力を入れていったらいいのかというのが自分で学べる場所では、僕は三省堂が一番優れているかなと思った。

ほかにはないか。

岡村委員

三省堂であるが、全体的に、基礎で硬筆の書き込みの部分、特になぞり書きが多く設けられていて、また、硬筆における鉛筆の持ち方の説明を最も詳しく掲載しているが、なかなか、今、大人は字を書かなくて、学校くらいしか書かないので、そこでぐっと指導していただけるとすごくいいと思った。

大熊教育長

確かに硬筆の鉛筆の持ち方が書かれているのは三省堂だけ。ほかには、筆の持ち方は書いてある。なるほど。ちょっとそこは気がつかなかった。このところである。

ほかにはないか。よろしいか。

そうすると、私も意見を言ってしまったが、まず、置きやすいコンパクトなほうがいいだろう。こっちは2つは光村と三省堂であるが、先ほどの筆の動かし方というのでは、これは少し差があるように思った、分かりやすいという。こういうことは、一人で学べることにもつながると思う。一人で学べることも、今回、コロナ禍の中で大事だと思うので、見て学べるという視点で、ほかのところはそんなに差があるわけではないが、こういうビジュアルというか、一つの作品の中で意義を見つけていかないと、なかなか教科書選定ができないというところもあるので、今のところ、コンパクトで手本として置いて邪魔にならず、硬筆、それから筆の運筆の仕方、持ち方、しっかり書いてある三省堂にしたいが、いかがか。よろしいか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長

こんな感じで決めていくのでいいか。

それでは、書写の教科書は三省堂に決定する。

納得いかないのであれば、ちゃんと意見を言ってほしい。しっかり話し合いたいと思う。

それでは、次に、社会の地理的分野の説明をお願いします。

山中校長

それでは、社会（地理的分野）教科用図書の調査研究の報告をする。

地理的分野は全4社になる。

社会科（地理的分野）においては、我が国の国土及び世界の諸地域について、地域の諸事情や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べ、まとめる技能を身に付けることが求められている。この地理的分野、4社とも、知識、技能をきちんと習得できるような構成になっている。

東京書籍の教科用図書についてである。国語科と同じように3点ずつ説明していく。1、SDGsの視点から世界や日本の諸地域について考える教材があり、レポートのまとめの活動に取り組みやすいことがある。2、みんなでチャレンジは、知識、技能の習得に重点を置いており、対話的な学習に活用しやすいことがある。3、「スキルアップ」は、基礎的、基本的な技能の習得に活用しやすいことなどの特徴がある。

教育出版の教科用図書について説明する。1、世界、日本、それぞれの「学習のまとめと表現」のページが充実しているため、レポートを作成しやすい。2、資料やグラフの配色が工夫されていて、見やすいことがある。3、「地理の窓」のコラムが2単元に1つ程度あり、思考力、表現力を育成でき、学習を深めることができるという特徴があった。

帝国書院の教科用図書についてである。1、全体的に思考力、判断力、表現力の育成を重視した構成になっていること。2、「節の学習を振り返ろう」のページが充実しているため、各地域の特色を考えたり、SDGsを通して記述したり学んだことを生かしたりする活動ができることがある。3、関連する紹介コラムが豊富であることなどの特徴がある。

日本文教出版の教科用図書についてである。1、全体的に思考力・判断力・表現力の育成を重視した構成になっていること。2、各ページに、「見方、考え方」の記述があるため、生徒の思考に役

立つつくりになっていること。3、学習課題に結び付いた資料が提示されているなど特徴がある。

報告は以上である。

大熊教育長

ありがとう。

質問はあるか。どうぞ。

浅野委員

今、御説明の冒頭で、調べる技能、まとめる技能が重要であると御指摘されていて、実際、指導要領ではそこは強調されているポイントだと私も思う。この点に関して、特に特色のあるというか、工夫の凝らされた教科書はあったか。

山中校長

4社とも技能を身に付けるという設定については共通にあった。その中でも、東京書籍は「スキルアップ」、帝国書院は「技能を磨く」という部分を設けているので、技能を習得するための工夫が見られていた。

以上である。

浅野委員

ありがとう。

大熊教育長

ほかにあるか。どうぞ。

岡村委員

小学校の学習との接続という点で、各社どのような工夫が見られたのか。

山中校長

4社とも小学校での既習事項を取り上げた構成にはなっていた。強いて挙げるとすれば、東京書籍は小学校で学習した語句を分かりやすく紹介していた。

以上である。

大熊教育長

質問はないか。

岡村委員

でも、すごくそのことは大切だと思った。小学校で使ったのが使えるというのは、すごく大切である。

大熊教育長 ほかに。よろしいか。
 それでは、これより協議に入る。意見を願います。

福元委員 小金井の子供たちには、これから日本で、また世界で活躍できる
 ような力を身につけていってもらい必要がある。そのような点で考
 えると、日本や世界について学習する地理の教科書に、持続可能な
 開発目標であるSDGsの視点が取り上げられていると、大変分
 かりやすいと思う。
 東京書籍と帝国書院は、巻頭の部分で見開き2ページで大きく示
 している。本文中にもところどころ記載されているのでいいなと思
 った。

大熊教育長 帝国書院は、最初から1ページ目にこれが出ている。ほかの
 ところはどうか。ほかのところを全部見てもらっても、1ページ目
 はこうなっている。これが日本文教出版。世界遺産を載せている
 教育出版。東京書籍は2ページ目にこういう形で出ている。書いて
 あるが、SDGsという言葉はない。それがしっかり出ているのは
 帝国書院と。

福元委員 そうである。

大熊教育長 ほかにあるか。どうぞ。

鮎川教育長
職務代理者 教育出版と帝国書院の狙いや問いの提示の仕方がよいと思った。
 どちらも章の狙いや問いと節の狙いや問い、そして学習課題という
 形で単元を貫くように狙いや問いを明確に示している。生徒が学習
 の見通しを持つことにもつながると思う。こちらの資料の中の学習
 課題の点に着目して拝見して、4社とも学習課題について工夫され
 ている点などが記載されている。
 以上である。

大熊教育長 それは……。

鮎川教育長
職務代理者 的外れか。

大熊教育長

いや、そうではなくて、すごく差がある。

一番最初のところで見えていくと、教育出版は大陸と海洋の分布にはどのような特徴があるでしょうかと聞いている。それから、日本文教出版は大陸や海洋は地球上にどのように広がっているでしょうかという問題である。それで、東京書籍は、大陸と海洋はどのように分布しているでしょうか。また、世界はどのように区分できているでしょうかという形になっている。帝国書院は、地球上の大陸はどのように分布しているだろうか。また、世界はどのように区分することができるのだろうかという質問が問いかけている。こういう言葉が、子供たちに突き刺さる言葉はどれなんだろうかということを僕らも考えていかなきゃいけないなと思うわけである。そういうふうを書いていくと、学習課題がいつもいつも明確に示されているのは、東京書籍と帝国書院がいつも同じ形で示されている。こっちも同じように。こっちは、ここに小さく書いてあって探さないといけない感じになる。こっちは、このところに小さく書いてある。だから、この課題をしっかりと明確に示そうという意思がある教科書となると、今で言うと、東京書籍と帝国書院が明確な課題を提示するという点では意識されて編集されているところが分かるかなと思う。僕もそのことは感じた。

ほかにはないか。どうぞ。

浅野委員

教科書の見やすさということについて、大きい話と小さい話をさせていただきたい。一つは、教材の写真や地図の見やすさ、あるいはコラムの面白さといったようなことがあって、こちらは選定資料で各社それぞれが工夫を凝らされているということが報告されていて、私も納得しながら読ませていただいた次第である。改めてもう一度教科書をざっと見てみると、やはり細かいところで分かりやすさや見やすさに違いはあるかなと思うところがある。具体的なことを言ったほうが良いと思うので、例えば、今、教育長からお話のあった東京書籍と帝国を比べてみると、どこでもいいが、例えば一番最初、世界の州を説明する、一番最初、アジアで始まり中国が取り上げられていると思うが、中国の地域別の1人当たり総生産額というものを出している、地図の上で数字を出すというグラフが4社中3社でやっている。金額の書き方が、帝国であると、例えば赤が

150万円以上、黄色が70万円から100万円というふうに円表記になっている。東書の場合は、赤が10万元以上、黄色が5万から7万円、元表記になっていて、その下に1元幾らというふうに注がついている形になっている。

もう一社、載せているところは元表記のみで、円換算ができない。こうして見ると、中学校の早い段階で、アジア州、中国を学ぶときに、どれが一番見やすいかなということになると、円表記がそのまま書いてある帝国が見やすいだろうなと私は思う。

ほかのところも、こういった種類の……。

大熊教育長 何ページか。

浅野委員 帝国の場合は55ページの上、左サイドの下の地図である。それから、東京書籍の場合は63ページの一番上の図である。事実上、同じ地図である。貨幣の通貨の表記が多分違うだけである。

ちなみに、もう一社、載せているのが、日本文教出版は49ページになる。というような細かいところ見ていくと、帝国は一段心配りが行き届いているかなという印象を私自身は持った。もちろんほかの会社もそれぞれ工夫を凝らしていて、それぞれの見やすさがあると思うが、資料を読み解くという観点からいうと、やはりそういったところに配慮が行き届いている教科書のほうがいいのかと私自身は考える。それが非常に細かいポイント。

もう一つ、もう少し大きな話をすると、先ほど教育長が言ったことと重なるが、各単元、各節の冒頭に学習課題が示されている。これをどう縮めていくかというのがすごく大切だと思う。これは帝国であるが、課題があって、ここで縮める。確認と説明という。この説明というのがまたいいなと私自身は思うが、問いがあって、確認し、説明させるという、このリズムで作られている。

これがはっきりしているのは、実は東書もそうで、東京書籍の場合も、各節初めにこれがあって、どこで縮めているかというところ、ここで縮めている。東書の教科書は非常に内容が豊富で、そのためだと思うが、ページをいっぱい使うという傾向がどうしてもあって、一番下のノンブル表記と同じ段に入っていく。だから、ここがちょっと見づらいところもあるかなという。

それは細かい話なので、ちゃんと縮めているが、私が注目したい

のは別のところで、東京書籍のつくりは基本的には指導要領に極めて忠実に丁寧につくられているというのが私の感触で、そのために何が起こってくるかという、開始と終結の間にステップを踏むようなつくりになる。例えば、ここだとスキルアップとか、地理にアクセスとか、いろんな項目が、問いがあって、いろんなステップがあって、最後のところにたどり着く。だから途中の経過もとても丁寧に段取りされている。それに対して、帝国のほうは、極めてシンプルで、学習課題があって、確認しよう、説明しようまでの間にあるのは、語句解説と資料だけである。物すごくシンプルにつくられている。

どちらがいいかという問題で、私はこう思うが、もし、今年1年目、最初に教えなければいけないという先生にとっては東書のほうが使いやすいだろうと思う。でも、ベテランで経験豊富な先生からすると、それは逆に縛りに感じられるところもあるだろうと思う。つまり余白が多いほうが、先生方の掘り下げがしやすいだろうと私は思っていて、小金井の先生方は、皆、若い方も含めて非常に実力のある方だと私は思っていて、あまり丁寧に段取りされている教科書よりは、余白の多い教科書のほうが、より深い授業ができるのではないかなと思った次第である。

ついでに言えば、主体的・対話的で深い学びの、主体的という言葉であるが、考えてみると非常に不思議な言葉であり、生徒たちを一生懸命主体的にしようという、その働きかけの結果として、主体的になった子供たちが本当に主体的と言えるのかという問題は、やはり常に付きまとう。だから、丁寧な段取りをして働きかける、その結果として主体的になるというよりは、遊びの余白があって、教員が自由にやり、その中で生徒が触発されて学習意欲を喚起されるみたいなことがあったほうが、本来の趣旨にはかなうのかなと思った次第である。

なので、私は帝国と東書、どちらもいいと思うが、帝国の自由さに1票入れたいなと気がしている。

以上である。

大熊教育長

なるほど。説得力が。

ほかに意見、どうぞ。

鮎川教育長
職務代理者

浅野委員の御意見を聞いて大変共感した。小金井の学校の先生方は、大変熱心でいらして、教材研究などをよくしてくださっていて、御自身での自作のプリントなども、副教材として配布されている授業もたくさん拝見した。

それを生かせるという点では、浅野委員の「遊びの余白」という言葉に合うと感じた。

以上である。

大熊教育長

なるほど。
ほかにないか。どうぞ。

岡村委員

浅野委員の御意見を拝聴して非常に感銘を受けた。本当にそうだと思う。

帝国は、やはり老舗というか、よくそこら辺を分かって作っていらっしゃるんだなと、私がぱっと見ても帝国がいいなと思ったのは感性でそう思ったが、浅野委員のお話を聞いて納得した。

大熊教育長

ということである。今の話を聞いて、福元委員、どうか。

福元委員

そのとおりだと思う。いいかなと思う。

大熊教育長

見やすさということに関してはどんな感じか、各社。

浅野委員

見やすさのビジュアルという観点から言うと、各社ともそれなりに工夫を凝らしていて、写真のきれいさとか、地図の色使いとか。ただ、先ほども申し上げたように、資料として見たときに見やすいということであると、やはり帝国に一日の長がありそうだなと思う。

それから、もう一点は、これは地図帳のほうでも関係してくるが、地図の色使いや線の強弱というのか、その辺の見やすさが、やはり帝国は見やすいなと思うことが多い。ただし、この辺は主観が入るというか、人それぞれ美的センスも絡んできそうだから、なかなか断言することは難しいと思う。

以上である。

大熊教育長

ということで、ほかにないか。

見やすさという点ではそれぞれあると言われてしまったが、しっかりと課題を提示し、それを最後にまとめる。その途中で小金井の先生たちに合っている緩やかな主体性ということを考えると、今、帝国がいいと言われたが、地理は帝国書院でよろしいか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長

それでは、地理の教科書は帝国書院に決定する。

次に、社会、歴史分野の説明をお願いします。

山中校長

それでは、社会（歴史的分野）教科用図書の調査研究の報告をする。

歴史的分野、全部で7社になる。

社会科（歴史的分野）においては、我が国の歴史の大きな流れを世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べ、まとめる技能を身に付けることが求められている。全7社とも知識、技能を確実に習得できるよう写真等の資料を豊富に掲載していた。

1社目である。同じように、また3点ずつ説明させていただく。

東京書籍の教科用図書についてである。1、全体的に知識、技能の習得に重点を置いた構成になっていること。2、本章に入る前の歴史への扉のページに、各時代で活躍した人物が掲載されているため、学習に取り組みやすく、学びに向かう力を育成しやすいこと。3、単元末にまとめの活動があり、クラゲチャートなどの具体的ツールが取り組みやすいことなどがある。

教育出版の教科用図書についてである。1、知識、技能の習得、思考力、判断力、表現力の育成、学びに向かう力の育成といった3観点をバランスよく身に付けられる構成となっている。2、学習内容ごとに働かせる歴史の見方、考え方が紹介されている。3、歴史の技の問いを通して、歴史学習の基本的な議論を身に付けることができるという特徴があった。

帝国書院の教科用図書についてである。1、節として大きな問い、ページごとの小さな問いに分かれていて、目当てを立てやすいこと、2、コラム、未来に向けては、環境教育、人権教育、平和教育に活用できる内容であり、学びに向かう力の育成につながることもある。

3、難しい語句についての解説が充実していた。

山川出版の教科用図書についてである。1、全体的に思考力、判断力、表現力の育成を重視した構成になっている。2、コラムや歴史へのアプローチでは、地域を様々な角度から歴史的に考えたり、興味関心を引いたりするような工夫が見られることがある。3、文字を小さくすることで掲載する内容を多くして、資料も含めて詳しく記載されていることがある。

日本文教出版の教科用図書についてである。1、全体的に思考力・判断力・表現力の育成を重視した構成になっている。2、チャレンジ歴史が主体的・対話的で深い学びを实践できるように工夫されていた。3、まとめページの「アクティビティ」は時代の特色を捉えやすいようになっているため、視点を変えながらまとめができる工夫がされていた。

育鵬社の教科用図書についてである。1、全体的に思考力、判断力、表現力の育成を重視した構成になっている。2、特筆すべき史実をテーマにして学習を深めるとともに、人々の生活に焦点を当てた学習の流れになっているため、時代のイメージをつかみやすくなる。3、「歴史のターニングポイント」が、対話的な学びを通して、時代の特色の理解を深めるような構成になっていた。

最後である。学び舎の教科用図書についてである。1、知識、技能の習得・思考力・判断力・表現力の育成、学びに向かう力の育成といった3観点をバランスよく身に付けられる構成となっている。2、単元の最初に、「フォーカス」という読み物を載せ、その単元に関するエピソードを紹介することで歴史学習の入り口になり、学びに向かう力を育成できるように構成されていた。3、見開き2ページで1単元となっているため、授業を展開しやすく、単元ごとの振り返りをしやすいという特徴があった。

報告は以上である。

大熊教育長

ありがとう。

それでは、質問ある方は願います。

浅野委員

課題に対する主体的な取組ということが重要だと思うが、今次の指導要領では。今回の教科書では、その点についてはどのような工夫がなされているか。

山中校長 課題の提示という点で、教科書の本文以外のコラムの部分が工夫されているところが見られた。

まず、教育出版のコラム、「歴史の窓」は、学習した内容から興味関心を広げるようなテーマを取り上げている。帝国書院のコラム、「未来に向けて」は、歴史学習を踏まえながら、これから現代の課題を解決するために何をすべきかを考えるようなテーマを取り上げている。山川出版のコラム、「歴史へのアプローチ」では、地域を様々な角度から考え、興味・関心をもたせるような工夫が見られた。

以上である。

浅野委員 ありがとう。

大熊教育長 実はこういうコラムというのは、授業中、先生の話が分からなくなったときによく読んでいて、それで、ふと我に返って授業に戻るという、こんなことを言っていていかどうか分からないが、結構重要な位置を占める。余分なと言っちゃいけないが。

今回、調査研究をさせていただいて、歴史の教科書と国語は難関であった。そういう引っかけるところがいっぱいあって、思わず勉強してしまった。こんなことじゃいけない。すまない。効率的にやるようにする。

何か質問はあるか。

岡村委員 小学校の学習との接続という点で、何か工夫は見られるか。

山中校長 小学校では、歴史上の人物について細かく取り上げて学習をしている。中学校では、特に東京書籍は、「歴史への扉」において、各時代に活躍した人物を掲載している。教育出版では、第1章「歴史の捉え方、調べ方」において、時代順に人物や文化財を掲載している。帝国書院は、第1部「歴史の捉え方と調べ方」において、小学校で学ぶ主な出来事や人物を、見開き2ページで表している。こういった3点が工夫されているところであった。

以上である。

大熊教育長 なるほど。なかなか差を見つけるのが難しい状況だとは思いますが、何か質問はあるか。よろしいか。
それでは、協議に入らせていただく。どうぞ。

福元委員 歴史の教科書については、教科書展示会のアンケートで、非常に多くの意見をいただいた。

これらに目を通して、市民の皆さんの歴史の教科書に対する思いを確かに受け止めた。それらの意見を踏まえた上で、これからの小金井の子供たちに求められている力を付けるために、新しい学習指導要領で定められた、主体的・対話的で深い学びを実現できるような教科書を選ぶ必要があると思った。

大熊教育長 その点で、コロナ禍の中でしっかり学べるという形になっていくと、資料の提示であったり、デジタル教科書がしっかり整理されていることも、選択できるということも一つの大事な観点になると僕は思っていて、教科書の資料だけではなくて様々に広がりがある教科書であるので、その辺、デジタル教材がしっかりと用意されている教科書を選んでいきたいなと僕も思った。それが子供の興味関心を広げたときに、家でも勉強しようというときに、さらに発展して歴史の勉強ができるということも大事ななと思った。
ほかにあるか。鮎川さん。

鮎川教育長 教育長が言ったことから考えると、学習のための資料がどのぐらい提示されているか、分かりやすく示されているかということもポイントになるということか。

大熊教育長 そうである。

鮎川教育長 見るポイントという点では今伺ったとおりであるが、具体的な点で言うと、どの辺りに着目したらいいか。

大熊教育長 各教科書、いろいろ工夫されていて、主体的に学習を進めるようにという形で、東京書籍では、これは一番最初にどうやって調べたらいいかということをもとめて書かれている。そういうのがまとめて書いてあるということと、それから、各單元ごとに少しずつ書いて

あるのと2つに分かれる。だから、そういうのが全然ない教科書と
いうのを選ぶほうが難しく、主体的・対話的で深い学びを実現さ
せるためには、各教科書、様々に努力しているなという感じはある
ように思う。重点の置き方に差はあると思う。

鮎川教育長
職務代理者

分かった。ありがとう。

大熊教育長

岡村委員。

岡村委員

さっき浅野委員が話で、今、主体的に勉強できるように、例えば
帝国書院は、大きな問いとか、ページとか書いていてある。そのね
らいは、こういう学習を通じて最終的に自分でそういうことを考え
られるようになるために、今はこういう風に質問をして、自分で学
ぼうとさせている状況だということか。主体的に学ばなきゃいけない
というのに、質問が書いてあったら、それは主体的にならないな
と思うが、今、主体的に学ぶ、こういうふうを考える質問があって、
こう考えて、それがだんだん主体的になるようにという練習を、中
学生が練習しているということか。違うのか。

浅野委員

そうなのかなと私も思う。その場合に、問いのかけ方というのが
とても重要なのかなと思う。つまり条件反射的に答えられるような
問いをかけてもしようがないところがあるし、先生はどうせこうい
う答えを求めているんだろうというふうに答えられてしまうよう
なものも、とても主体性を喚起しているとか、誘発していると言
いづらいところがあると思う。その点で、章の初めに掲げられている
問いを見比べてみると、やはり水準の違いのようなものはありそう
だなと私自身は思った。

例えば、最初の問いと最後のまとめは、大体どの教科書も対にな
っていたりするが、最後のまとめのところも問いになっていて、最
初の問いとほぼ同じことを繰り返しているというような教科書も
ないわけではない。その場合、問いは、教科書だから教科書的な問
いであるが、そういうところがあって、そういうものから、確かに
これは、子供たちに問いかけたら、結構な数、食いついてきそうだ
なと思えるような問いまで、それなりに幅広く分布していると私は

見た。だから、できるだけこちらの極に近いものをもっていくのがいいのかなと私自身は考えている。

大熊教育長 いかがか。

浅野委員 続けてよろしいか。

大熊教育長 はい。

浅野委員 振り返りのことで、今の主体的であるということと深い学びは、どちらも自分の学習過程を振り返るということと表裏一体の事態だと思う。選定資料を拝見させていただいて、その辺、強調して書かれているのが東書と教出、帝国、文教か、この辺りは振り返りの部分を、そこに力を入れて作っているということが伺われたので、そのこの辺りが見るべき点なのかなと、まずは思った。

その上で、先ほど地理の教科書で言ったことと、一見すると反対のことをこれから言うが、雑駁な話であるが、ざっと教科書を読ませていただいて、私自身は3つ、これはいいなと思ったものがある。

1つは東京書籍の教科書。やはり非常に完成度が高いというか、非常に忠実に手堅く作られているなという印象を受けた。もう一つが帝国書院の教科書で、先ほども申し上げたように、初めと終わりがきちんとしていて、その間の自由度も確保されている。構造的な自由のバランスがとれている感じである。地理の場合は、その2社が比較軸というか、対立軸をなしていたわけであるが、歴史の場合、私はもっと突き抜けた教科書があって、それが3つ目にいいと思った学び舎の教科書である。

学び舎の教科書は、恐らく東書の対局にある、東書がいわば構造化した教科書の理想の極致だとすると、その反対側の理想の極致とも言うべきものなのかなという印象を持った。つまり突き抜けて自由な教科書、そして、取り上げられている素材の面白さとクオリティーの高さ、だから素材は物すごくいい。しかし、それを扱う料理人の腕が深いところで問われてくるような、そんな感じの教科書だなと思った。

例えば、素材のよさみたいなことで言うと、古いところから言うとスパルタクスの乱とか、女性の権利宣言を資料編で取り上げてい

る教科書はほかにもあるが、本文で取り上げている。あと、北米の先住民、ネイティブアメリカンに関する記述であるとか、ハイチの革命の話であるとか、ほかのところでは取り上げない、こういう言い方がいいのかどうか分からないが、マイノリティーの側、収れん化された側からマジョリティーの側の歴史を捉え返したらどう見えるかというような視点が一貫していて、それは本市の指導要領における多面的な事象の把握ということにつながる非常に重要なポイントだろうなと個人的には思う。

安心を取るか、自由を取るかみたいなことだと思う。しっかりとお膳立てされていて、誰がやっても大体うまくいくという安心を取るか、すごい人がやったら物すごく深いところまでいけるという自由なわくわく感を取るかというようなことがあるのかなと思うが、その中で、帝国はその両極の間であって物すごくバランスがよくとれているなというのが私の印象である。だから3冊目として帝国はいいなと思った次第である。

なので、どれが一番いいとは言いづらいところがあるが、東書、帝国、学び舎、それぞれ非常にいいなと思った。

大熊教育長

御意見。

僕も研究させていただいたが、浅野委員の話を知ると、なるほどと思いましたが、子供たちが、実は、勉強に意欲的になれなくなるというのも、数学に続いて歴史は面白くない、覚えるだけだろうということになっちゃう教科でもある。それで、ここで興味関心をなくしちゃうと、子供たちは歴史についてあまり勉強しないということになってしまって、何で勉強しなくなるかという、順番に覚えなきゃいけない内容が多いから。それから、教材の内容が多いからということになってしまう。ただ、中学校は、これから学び続ける子供たちを育てなきゃいけないという大きな内容で、先ほども言われて、学び舎のやつは確かに内容的にも豊富であるが、内容が豊富ゆえに歴史に興味を持ってなくなっている子供たちも一方にいるんじゃないかなという不安感も実はある。どうか、その辺は。

浅野委員

それは分かる。

大熊教育長

多くの子供たちが、これから歴史を学び続けるんだ、そういうふ

うに学び続けた子供たちは、学び舎の中に書いてある細かい歴史事情を主体的に学べるようになる、より多くの子供をつくっていく必要が教科書にはあるような気がする。そうなったとき、各単元の導入の部分で大きな違いがあるが、この辺、皆さん、どう思われたかというのをちょっと見ていただきたいが、最近のテレビに出てくるタレントさんたちがしゃべっている内容の中で、平安時代と奈良時代はどんな時代だっけみたいな形で、なんかとんちんかんな話をしている人たちがよく出てくるが、時代背景をしっかりと捉えられていないという人たちが多くて、その時代背景がしっかりと捉えられていないと細かいところになかなかいられないということがある。僕は、そのことをいつもいつも危惧していたら、今回の帝国の時代を眺めてみようという、こういう写真がある。俯瞰した絵があり、この絵をタイムトラベルという形で書いてあるが、たった一枚の絵で、これが鎌倉、これが平安、どこが違うかというところを子供たちと話し合うだけで、この時代背景と言われるものが頭の中に入ってくる可能性が高いと思った。

それから、興味深かったのは、奈良時代はこうだったんだよ、その前の縄文、弥生はどうだったかという、一枚絵になっているが、縄文、弥生と、こういう形でしっかり示されている。この内容を10分でも20分でも、子供たちはどんなことを発見したかということを書いてみるだけで、時代背景が子供の体の中に入ってくるという意味では、これは、僕は、ベストというよりも、こういう形で勉強していくと、ここで歴史の勉強が終わるのではなくて、さらに学び続けられる子供たちを育てる教科書ではないかなと僕は思ったが、浅野委員、どう思われるか。

浅野委員

言うことは大変よく理解できる。

私も、3つ、よいと思う教科書を上げたが、どれが一番と自分の中では決め切れないところがあり、私自身は教壇に立って中学生に教えた経験は、実は塾で教えた経験はあるあるが、教壇に立って教えた経験はないので、その辺は現場経験の裏打ちのある判断が欲しいところかなと思う。

今、教育長が言われたことは、その意味で、私としてはかなり腑に落ちるところがあった。

大熊教育長

それで、一番面白いのは現代のところであるが、タイムトラベルの12の昭和という、こっち側に煙がいっぱいあって、こちら側のところではビルが立ち並んで、多分、一番こっち側にテレビのアンテナをつける写真がある、昭和30年代ぐらいだと思うが、そういうことが、これから公害が起き、テレビが普及し、ビルが建ち、高度経済成長の様子を、この一枚絵で表している。これから何が起こるかということ何か予見している絵である。そういうことを子供たちと一緒に考えることも実は面白い授業につながっていくのではないかと僕は思った。

どれもよい教科書で選ぶのはすごく大変であるが、何か特筆したよさみたいなものを基準の一つ選んでいかないと選び切れないと思うので、その辺、いかがか。皆さんの御意見をどうぞ。

鮎川教育長
職務代理者

浅野委員と教育長の話をお伺いして、なるほどと思った。

私自身、歴史的な背景、時代の背景をきちんと理解できていない。浅野委員と反対に、私は塾では数学などを教えていたので、社会を教えた経験はゼロである。そのような私から見ると、先ほど浅野委員が言ったとおり、東京書籍が丁寧に書かれており、学習指導要領にもきちんと沿った形で、体系的に書かれているので、最初はよいと思っていた。学び舎も、浅野委員のお言葉であると、突き抜けている。大きさも特徴的ではあるが、自分自身も惹かれながら読んでいた部分がある。

ただ、教育長のお話を伺って、帝国書院のタイムトラベルは一目で分かり、細かなところを見ていくと、この時代について考えることができ、全体的に見ることができる。大変工夫されていると思う。そして、どのように学習をしていったらよいかがよく考えられている。帝国書院の教科書のタイムトラベルが時代背景を理解するための教材にもなり、資料にもなり、さらに問いかけにもなるという、素晴らしい教科書と思う。

以上である。

大熊教育長

ほかにあるか。

コロナ禍ではあるが、福元委員にも言われたが、市民の関心も高いところなので、どうしてこれを選ぶのかというのはしっかり議論していきたい。

僕、最初に言わせていただいたが、いわゆる今の小金井の状況から考えると、この間の議会で1人1台のコンピューターの導入を決めさせていただいた。そうすると、教科書だけで勉強するんじゃないくて、教科書を超えて、さらにいろんな情報をとれることも重要だと思うが、やはり先ほど言ったように、デジタル教科書というようなものを、今、導入を進めているが、デジタル教科書の導入ができる会社が、実名を上げさせていただくと東書と教出と帝国と山川と日本文教という形になってしまう。いわゆる学びを広げるという点から考えると、こういうデジタル教科書、これがデジタルになるだけじゃなくて、一つ一つの写真を大きくできたり、動画があったり、動画をすぐ見られたり、そういう機能があるわけだから、そういうことは、さらに学びを深めることになると思う。その辺、選定するには、デジタル教科書を選定できるかどうかという点も、選定するときの重要な視点になるかなと思っているところである。そんなところも、ちょっと頭に入れていただきたい。

ほかにどうか。

福元委員

デジタルについては、一通りやったから、私はちょっと話題を変えて、コラムから見てみた。どの教科書にもコラムを載せている。先ほどの質疑応答にもあったが、コラムを通して課題を提示するというのも一つの方法だと思う。先ほど、特徴的なものとして、教育出版、山川出版、帝国書院の3つが上げられた。山川出版は、教科書のつくりが細か過ぎて、やや読みづらく感じた。教育出版はゴジラを取り上げるなど、興味関心を持たせるような工夫が見られる。帝国書院は、選定調査資料によると、コラム、未来に向けてで、環境教育、人権教育、平和教育への活用とある。

また、先ほどの報告では、学びに向かう力の育成につながることもあった。そういう点から見ても帝国はいいかなと思っている。

大熊教育長

ほかにないか。よろしいか。どうぞ。

浅野委員

今、教育長から御指摘があって、私も、今、絵を見直してみたが、例えば室町時代の入り口、80ページ、81ページでこういう見開きの図がある。よく知られた社会科、歴史分野の授業実践などでは、その次の82ページの、例えばこういう図を素材にして、クラスで、

絵の中で読み取れることを上げていこうみたいな授業実践をよくやる。実際にやろうとすると、なかなか難しいことである。だから、あえて見やすく、分かりやすい、この図に置き換えているということが、大変に、もしかすると意義のあることなのかもしれないなど、私自身、今、思い直した。そんなふうにより認識するに至った。

このページを見たときに、82ページの図を拡大して、これを教材にしたほうがいいんじゃないかというのが私の第一印象であったが、多分、難しい、見て、気づくこと自体が。この扉の絵は現代風にアレンジしたイラストなので、生徒の観点から見ると、恐らくこのほうが飛びつきやすく、また、いろいろなことへの気づきも、刺激されやすいだろうと、今、そこに思い至った。帝国書院、非常によい工夫なのだなど、今、気づいた次第である。

大熊教育長

問いも面白くて、何をやっているんでしょうかといういろいろある。

室町時代の今であるが、右側に、前の時代と比べて特色を考えよう、鎌倉時代と比べるとどのような点に変化したのか、前のものを子供たちは忘れていないかかもしれないが、前のところを見ていて、どこが違っているんだろうといったら、全然違う絵が展開する、これとこれ。そうすると、それが全部教科書と、鎌倉時代を表しているというより、室町時代になると、本当に文化が発展していくというところが一番の大きな違いだと思うし、農業が発達したことによって、文化が発展していくというようなどころを見極められるところが一つ大きな点かなと、僕自身も思う。

全然効率的に進んでいない。少しこれからスピードアップをしていきたい。

ということで、今、子供たちの興味関心を広めて、学び続ける子供たちを育てる教科書としては、内容的に充実している学び舎も捨て難いが、そういうところに主体的に取り組めるように、今は帝国書院を選択しておくということではいかかがか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長

最終的に、子供たちがさらに深いところに主体的に取り組めるようにするためには、そういう工夫も必要かなと考えた。よろしいか。それでは、歴史の教科書は帝国書院に決定する。

次に、社会（公民的分野）の説明をお願いします。

山中校長

それでは、社会（公民的分野）教科用図書の調査研究の報告をする。

公民的分野は全部で6社になる。

社会科（公民的分野）においては、現代の社会生活及び国際関係などについて、個人と社会との関わりを中心に理解を深めるとともに、諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べ、まとめる技能を身に付けることが求められている。

6社とも地理的分野及び歴史的分野の学習の成果を活用しながら学習を進められるような構成になっていた。

まず、1社目である。東京書籍の教科用図書についてである。1、全体的に思考力・判断力・表現力の育成を重視した構成になっている。2、各単元の初めにある「導入の活動」が実践しやすいものであり、単元の学習に入りやすい工夫がされていた。3、章末に「探求のステップの問いを解決しよう」という内容があり、思考力・判断力・表現力を見ることができるなどの特徴があった。

教育出版の教科用図書についてである。1、全体的に思考力、判断力、表現力の育成を重視した構成になっている。2、「公民の技」は、3年生の話し合い活動に適した内容になっていた。3、平等権、自由権、社会権が他社の倍の4ページ掲載されていることなどの特徴があった。

帝国書院の教科用図書についてである。1、知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成、学びに向かう力の育成といった3観点をバランスよく身に付けられる構成になっていた。2、意見が対立するテーマが幾つか設定されていて、現代社会の見方、考え方を働かせ、深い学びを实践できる内容になっていた。3、資料、写真ともに新しいものが多いことなどの特徴があった。

日本文教出版の教科用図書についてである。1、知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成、学びに向かう力の育成といった3観点をバランスよく身に付けられる構成になっている。2、巻頭にSDGsを取り上げることで、地理的分野及び歴史的分野の既習事項を振り返り、公民的分野の導入につなげやすい工夫がされていた。3、文字が多く平易な表現で読みやすいことが特徴として挙げられた。

自由社の教科用図書についてである。1、知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成、学びに向かう力の育成といった3観点をバランスよく身につけられる構成になっている。2、基礎的・基本的な知識・技能を習得するための語句の説明や、「ミニ知識」というコラムが多く掲載されていた。3、「卒業論文を作ろう」や、「課題の探求」の中でディベートがあり、生徒の興味を引くような工夫がされていた。

最後になる。育鵬社の教科用図書についてである。知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成、学びに向かう力の育成といった3観点をバランスよく身に付けられる構成になっている。2、資料の写真や図表に新しいものが多く、一つの社会問題を多面的・多角的に考察するための資料が充実していた。3、地域社会の課題に関わる記述や、地域社会の結びつきの大切さを重視していることなどが特徴としてあった。

報告は以上である。

大熊教育長

ありがとう。

それでは、質問のある方、どうぞ。

浅野委員

今次の指導要領では、具体的な現代社会の課題に対してどう取り組むかというところが公民的分野の一つの重要なポイントになっていたと思う。その点で何か特色のある教科書はあったか。

山中校長

どの教科書も学習内容を社会生活と関連づけて多面的、多角的に考察するような場面を設けている。

4社、東京書籍では、「トライ」で具体的な発問を出している。帝国書院では、意見が対立するテーマについてがある。日本文教出版は、「確認」と「深めよう」で、見方・考え方を働かせるような発問を設けており、多面的、多角的な考察を促している。自由社は、卒業論文やディベートなどを取り上げている。

以上である。

浅野委員

ありがとう。

大熊教育長

ほかにあるか。

岡村委員 小学校の学習や地理的分野、歴史的分野との接続という点ではどう
いう工夫が行われていたか。

山中校長 各社とも接続を意識したつくりにはなっている。特徴的なもの
としては、日本文教出版と育鵬社であるが、巻頭にSDGsを取り上
げていて、地理的分野と歴史的分野の振り返りを行い、公民的導入
につなげるような構成をされていた。

また、東京書籍と育鵬社は各章の初めに、また、教育出版と帝国
書院は各ページの下に小学校で学習した関連する言葉を掲載して
いるという工夫があった。

以上である。

大熊教育長 そのほか、御質問はないか。
それでは、協議に入る。御意見を願います。どうぞ。

福元委員 公民の教科書については、教科書展示会のアンケートで、歴史の
次に多くの意見を頂いた。その中で印象的だったのは、教育出版が
小金井市議会が採択した沖縄の普天間飛行場の移転に関する陳情
書について記載されているということであった。

大熊教育長 教科書に取り上げられて、いいことだなと思った。子供たちはも
う知っているかもしれない。
ほかはないか。どうぞ。

浅野委員 公民的分野の学年的な位置づけが、この場合、大切なのかなと思
うので、その点、一言言わせていただきたいが、9年間の義務教育
の最後の学年で学習するから、そのことを考えると、知識を身につ
けることももちろん大切であるが、繰り返しになるが、主体的に生
きていく、これから社会の中に出て一人で生きていくという、その
ための土台を作るという意味合いは非常に強く、それこそ主体的・
対話的で深い学びということが特に重要になる分野なのかなと思
った。

大熊教育長 そうということである。

先ほどの選定委員さんのお話の中にもあったと思うが、社会と関連づける、多面的、多角的に考察するような場面を設けていて、トライであるとか、いろいろ考えるという部分があるが、ちょっと、これ、よく見てみると内容が違っている。内容が違っているというのはどういうことかという、先生が求めていく課題を、何らかの形で話し合いを通して答えを導き出しなさいとか、あなたもう一回考えなさいというような形で言うと、人生をデザインしてみようという書き方、これは答えが決まっている。そこは、ほかのところも、そういう意味では、起業にチャレンジしてみようという、こういうことをやってみようということを示してある。

それから、東京書籍も、実はこんな見方がいいのかどうかも、皆さんと考えてもらいたい、いろんなことが起きているのでみんなで話し合っ解決しよう、ダイヤモンドランキングというやり方で挑戦してみようということである。だけど、この内容、後で詳しく見てもらうと分かるが、どういうことが解決策かというのは何となく見えちゃっているところがあり、こういうふうに課題を設定したら、こういうふうに考えると、こういう結論が出るという。

1社だけ、とてつもない問題を出している会社がある。これはさっきと同じように企業の企画書を完成させようという帝国書院のやり方。さっきの起業しようというもので、完成させようというものなので、企画書を作ればいい、という意味で答えがない。

もう一つは、これは、僕、面白かったが、あなたが無人島に漂着したら、これも答えがない。いわゆる、先ほど浅野委員が言われたように、義務教育の最後の年に、答えのない問題にクラスで取り組んで、みんなで考えてみるという教材としては、ほかの先生方もいっぱい工夫するとは思いますが、教科書に実際載っていて、そういうことをやってみることは一つ大事な点だと、僕は、義務教育の最後のときの、いわゆる社会に出て行く前に答えのない問題をクラスで取り組んでみるというのは、ひとつ面白いのではないかと思った。

答えの内容がちょっと違う。何かあるか。

鮎川教育長
職務代理者

大変奥の深いテーマかつ、先ほどから浅野委員が言っている主体的な学びを考えると、大変悩む。教育長が言ったとおり、教科書だけが全てではないと思うが、教科書によって、どのようなものを考えていくかという観点で、私たちは採択しなくてはいけないと思っ

ている。

先ほどの地理でも申し上げたが、狙いや問いの提示の仕方という点がやはり重要になってくると思う。私自身が調査研究をして、教育出版や帝国書院が、狙いや問い、学習課題を明確に示していると感じたが、どうか。皆様、いかがか。

大熊教育長

課題の出し方は確かに工夫されている。その辺では甲乙つけ難いが、最後のまとめの、いわゆる発展的な学習内容が、先生の意図的な方向に持ってこられるか、答えが全然ないところにすっ飛んでいっちゃうかという、その違いはあるかなと。課題の提示に関して言うと、そんなに差は、公民はないような気がする。

浅野委員はどうか。

浅野委員

課題の提示の仕方と言うと、教育長と少し意見が違ってしまいかもしれないが、ちょっと違うところもあるかなと私自身は思っていて、もちろんどの社も非常に工夫されたいい問いかけになっていると思うが、問いの深度、深さ、水準が違うところも結構あるかなと。

例えば、今、帝国が話題になったので、私も帝国に触れたいと思うが、どこでもいいが、例えば人権のところとか、今、たまたま経済のところを開いているので、経済でも人権でもいいが、経済のところと言うと、帝国の115ページ。価格の動き、いわゆる需要曲線と供給曲線の交点で均衡するという、あの話の中学生版であるが、この学習課題が、価格はどう決まるんだろうじゃない。ほかの教科書では価格はどう決まるんだろうという問いかけになっているものは幾つかあるが、それは正しい問いだと思うが、帝国は、市場経済とはどのような仕組みで成り立っているのだろうかという問いを立てる。つまり価格というものを単体で取り出すのではなくて、もっと大きな市場というメカニズムの一端をなすものというふうに最初から位置づけて問いを立てている。人権についても同じで、人権がだんだん拡張されてきたという説明をしている教科書も多くて、その中で、帝国の人権に対する学習課題は、人権と法の支配とはどのような関係にあるか考える。だから、人権なら人権、価格なら価格という概念を、それ自体として、覚えたり学習したりするのではなくて、それがもっと大きなメカニズムの中のどういう一項目なのかということを考えさせるようにつくられているだろうな

というふうに、読みながら私は思った。

ちなみに東書もその点で工夫が見られる立て方をしていると思う。なので、そこはちょっと、私はいいなと思いながら選んだ。

大熊教育長 僕も、東書のいいなと思ったのは、ちょっと揺れてしまうが、S市の市長になって条例を考えようという、こういうのはしびれた。いわゆる答えのない問いに果敢に取り組むという意味合いでは、ちょっとこれは子供たちに取り組みせたいなという、そういう視点で市政を見ていくというのはすごく大事だというふうに思ったが、課題の出し方を細かく見ていくと、先ほど僕が言ったのは、昔はそうじゃない教科書が幾つかある。課題がしっかり出されていない教科書もあって、課題がしっかり出されている教科書があるぞと、そこには、僕はあまり差はないと言ったが、細かく見れば実はあることは確かである、そういう意味では。

浅野委員 一番重要なのは、先ほど教育長が言われた、問いが答えを持っていないということが割と本質的に重要だろうなど、私自身も思うところもあって、結局、実際に出ていく社会の、答えのない世界であるので、義務教育の最終学年で、そういった問いに取り組むのは大変に意義のあることだろうと考える。

大熊教育長 答えのない問いを子供たちにぶつけるという点では、申し訳ないが、もう一回、どの教科書が一番いいと思われるか。

浅野委員 東書がなかなかいいなと思いつつ見ていたところもあるが、やはりこの点で言うと、帝国の問いの立て方は、細かいものから大きいものまで一貫して、こういう言葉がふさわしいかどうか分からないが、大変に面白いと思った。

大熊教育長 市場経済はどのような仕組みで成り立っているんだろうかという言い方は、他社にはない言い方である。こういう問いを、先生から、教科書から言われたときに、僕、これを見て思ったことが実はあって、NHKの「チョコちゃんに叱られる！」という番組を見たときの、チョコちゃんの問いに似ている問いである。つまり自分が分からないことを自覚できる問いで、えっと思えるという。ほかのやつは考え

ようとなっているので、考えなくちゃいけないが、これは、あっ、知らないわということを知覚して勉強が始まるという、ちょっと問いの質が違うことは、僕も意識していた。その点、うまく学校の先生方がこれを取り上げて、子供たちに問いを投げかけて、主体的に問題解決に取り組んでくれるというふうになってくれるのであれば、この教科書はやっぱりいいのかなという気はする。

ほかのところも見てもらうと分かると思うが、どうなっているでしょうという問いが多い。私たちのルールや契約はどのようなものなのでしょうかと、そういう問いである。人権という考え方はどのように発展してきたのでしょうかとなってしまう。そうじゃない、これは。

ということであるが、今までのをまとめてみると、浅野委員の意見を参考にしていくと、開かれた問いというか、子供たちがそれを聞くことによって、自分の理解をしていないことに気づいて、それを調べてみたいと思えるような問いとしては、帝国書院の問いが優れていると思う。

主体的な問いというアイデアは帝国書院の問いが優れていると思う。それともう一つは、最後の課題が、東京書籍もいいが、先ほどの、S市の市長になってみようとかというのでもいいが、総じて帝国書院のものは、全て答えのない問いになっているというところから、総合的に判断して、帝国書院という形にさせていただいて、いかがか。よろしいか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長

大分疲れてきたが、それでは、公民の教科書は帝国書院に決定したい。

概ね2時間経ちましたので、10分間の休憩をさせていただきたい。

次は地図、もう少し効率的にやっていきたいので、御協力のほど、よろしく願います。まだ幾つか山はあると思う。これぞと思ったときは、どんと言ってほしい。よろしく願います。

休憩 午後3時26分

再開 午後3時40分

大熊教育長

再開します。

第一会議室の席、少し空いている感じもあるので、他の部屋にいる方、もしよろしかったらこちらにおいでいただければと思う。

それでは、続けさせていただく。

次に、地図の説明をお願いします。

山中校長

それでは、地図、教科用図書の調査研究の報告をする。

地図は2社である。

社会科の学習では、地図などの資料から様々な情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける学習が重視されている。2社とも、社会科の学習において必要な資料が十分にまとめられた構成になっていた。

1社目である。東京書籍の教科用図書について説明する。1、全体的に思考力・判断力・表現力の育成を重視した構成になっていること。2、統計資料が比較的新しく、世界の主な宗教について写真や資料で分かりやすく掲載していること。3、各州地方の断面図が掲載され、色分けや濃淡によって高低差が視覚化され、等高線の学習で説明しやすいことなどがあった。

帝国書院の教科用図書についてである。全体的に知識、技能の定着を重視した構成になっている。2、教科書に準拠した内容で理解しやすく、特に日本の諸地域の特色として、地形、気候、人口分布、産業、交通といった、授業で活用したい内容が網羅されていることがある。3、大判のため見やすく、10ページ増えたが、紙の質をやや薄くして重量増を防いでいるなど特徴があった。

以上で報告を終わる。

大熊教育長

ありがとう。

それでは、質問のある方、お願いします。

浅野委員

地図を使っていろんなことを学習しているわけであるが、その地図を活用する際の工夫のようなことがあるかということの一つ伺いたいのと、あと、拝見すると、地図以外の資料も多数載っている。この辺について、地図帳のほかに何か違いがあるか、教えていただければと思う。

山中校長

お答えする。

まず、東京書籍であるが、日本の地方別の地図の中に歴史的事象を明示しているため、地理的事象と関連づけやすくなっている。また、統計資料が新しく、写真、グラフなどの関連資料を多く掲載している。さらに、アジアNIES 4か国の輸出品の変化をまとめるなど、産業の特色を比較しやすくするなどの工夫がされていた。

帝国書院では、ところどころ、地図活用というコーナーを設けている。地図を活用するための課題を示している。また、統計資料などの情報量を豊富に掲載し、さらに、名産品や特色などイラストで書かれているので、地理的、地域的特色を視覚的に理解しやすくするなどの工夫がされていた。

以上である。

浅野委員

ありがとう。

大熊教育長

ほかはないか。よろしいか。

それでは、これより協議に入る。御意見を願います。

岡村委員

帝国書院は、初めの部分に、詳しく地図帳の使い方を書かれている。もう一回復習する形で書かれていて、新たに1年生が入学したのときに、小学校とか振り返って、非常に分かりやすく、どうやって地図を作っていくか分かるので、やはり帝国書院の地図は素晴らしいなと思った。

大熊教育長

ほかはないか。どうぞ。

鮎川教育長
職務代理者

2つの地図を見比べてみて、選定調査資料にも書かれているとおり、東京書籍は都市名が大きく表記されているため見やすい。帝国書院は、調査選定資料によると、地図の都市名について、例えばムンバイは「(ボンベイ)」、そしてミャンマーは「(ビルマ)」と書かれていて、正式な都市名、国の名前のほかに、会話などで使われる名前も併記されているので、とても丁寧で分かりやすいと感じた。

以上である。

大熊教育長 ほかにないか。お願いします。

福元委員 帝国書院は、選定資料にあるとおり、防災のページが充実しているように感じた。様々な防災の取組がまとめられていて大変分かりやすい。浸水被害のハザードマップが掲載されているなど、どのような被害が起こる可能性があるかをイメージしやすいと思う。

大熊教育長 ほかにないか。お願いします。

浅野委員 帝国書院の地図は判型が少し大きくて、それを非常にうまく活用しているなという感じがする。見やすさということについて、例えば具体的に言うと、日本全図を見ていただきたいが、こちらが帝国書院である。こちらが東書である。大きさを最大限活用していて、もちろん地図自体も見やすい。さらに、凡例の入れ方に違いがある。各地方図を見ていただくと分かるが、例えば1ページめくってもらくと九州地方が入っているが、九州地方は、両者とも、あまり、見た目、違いはないが、こちらは帝国であるが、帝国はここに凡例がついていて、高度と海の深さ、それから市街地なのか、農地なのかということが、ここを見ると一目で分かるようになっている。東書のほうは凡例が地図帳の最初のほうに載っていて、そちらに戻らないと分からない形になっている。その意味でも、資料として活用する上では帝国のほうを使いやすいだろうなというふうに私自身は思った。

以上である。

大熊教育長 確かにそのとおりである。今、水害が起きたところの川を見てみると、こっち側は川があることは分かるが、こっちは川があるのが見にくいというのは、見やすさという点ではかなり差があるかなと思った。確かにそのとおりだと思う。

それから、今初めて気がついてやってみたが、九州地方のこのところを検索すると、情報が適切にとれるようになっていた。

浅野委員 ここか。QRコード。

大熊教育長 QRコードの。こっちはないのか。

浅野委員 多分あると思う。

大熊教育長 後で怒られちゃうかもしれないが、見つけることが……。

浅野委員 最初のここにQRコードの説明が書いてあって。あると思う。

大熊教育長 そうである。
分かった。地図はやっぱり見やすさが命というところがあると思う。そういう意味では帝国書院のほうが見やすいという意見があったので、今回、その点からして、地図の教科書は帝国書院にしたいが、いかがか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長 それでは、地図の教科書は帝国書院に決定する。
次に、数学の説明をお願いします。

木下校長 それでは、数学教科用図書の調査研究の御報告をする。
数学については全7社である。
数学科においては、数学的活動の楽しさやよさを実感して、粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度を養うことが求められている。7社ともに数学に対する生徒の興味関心を引くような工夫が見られている。
まず、東京書籍の教科用図書について御説明する。全て3点申し上げる。1、各単元の導入段階の題材に身近なものを利用している。2、数学的活動として、貼ったり作ったりするような実際の作業を多く取り入れている。3、文字の大きさ、イラストの配置が適切で見やすい構成になっているなどの特徴がある。
次に、大日本図書の教科用図書についてである。1、各単元の導入の内容として、学校生活で起こり得ることを話題にしている。2、各単元でめあてが示され、問題発見から問題解決までの流れが十分に示され、分かりやすい。3、発展的な内容が散りばめられているため、生徒の発達段階に対応しているなどの特徴がある。

次に、学校図書の教科用図書についてである。1、各単元の導入は、身近な例や、社会的状況を反映した題材が多く、利用しやすい。2、事象を数理的に考察するために、数学的活動を重視し、主体的、対話的に解決し、学びを深めていけるような内容になっている。3、ユニバーサルデザインの視点から教科書の構成が見やすく、特に網かけが工夫して使われているなどの特徴がある。

次に、教育出版の教科用図書についてである。1、問題解決の考え方や流れが明確に示され、取り組みやすい問題が設定されている。2、各単元の前に「～を学ぶ前に」として既習事項の確認ができるような構成になっている。3、巻末の補充問題など繰り返し取り組み、学習内容を確実に理解できるような構成になっている。

続いて、啓林館の教科用図書についてである。1、導入課題は活動を通して具体的な事象を学ぶように設定されている。2、「広げよう」で主体的に学ぶこと、「話し合おう」で対話的に学ぶこと、「まとめよう」で深い学びにつなげられるように工夫されている。3、身の回りの問題に対して数学を活用して解決する力を身につけることを重視した構成になっているなどの特徴がある。

続いて、数研出版の教科用図書についてである。1、既習事項の確認から学んだ内容を深め、身につけられるよう、適切な分量で配置されている。2、生徒同士や先生との会話調の部分が多く、会話に参加するような気持ちで学習に取り組むことができる。3、別冊で「探求ノート」が用意され、見方、考え方を働かせ、問題解決の力を高められるような構成になっているなどの特徴がある。

最後に、日本文教出版の教科用図書についてである。1、数学を利用して身近な事柄を解決する活動や、解決の過程や結果を振り返る教材を重視している。2、各単元のめあてが提示されていて、目的意識を持って学習に取り組むことができる。3、解説が丁寧で練習問題が豊富であるため、知識を定着しやすいなどの特徴がある。

以上が報告である。

大熊教育長

ありがとう。

それでは、質問のある方、お願いします。

福元委員

学習指導要領に示されている数学的活動について教えてほしい。それから、数学的活動の取扱いについて特徴のある教科書があった

ら教えてほしい。

木下校長

数学的活動というのは、生徒が目的意識を持って主体的に取り組む数学に関わりのある様々な営みのことをいう。具体的には、数や図形の新たな性質や考え方を見出そうとしたり、学んだ数学を具体的な課題の解決に利用しようとしたりするなど、生徒が必要を感じ、主体的に取り組めるような活動を指す。

教師の説明を聞くだけの学習や、単なる計算練習だけを行うというような学習は数学的活動とは言えない。

特徴のある教科書としては、まず啓林館が上げられる。単元の導入の課題に身の回りの具体的な事象を取り上げ、数学を活用して解決する力を身につけることを重視している教科書である。

また、東京書籍は、単元の終末の「深い学び」や、「学びを広げよう」で、日常生活等との関連づけをしている。そのほかに、立体図形を製作するためのシートを掲載したり、また、数学的活動の楽しさやよさを体感できるような工夫もされている。

以上である。

福元委員

ありがとう。

大熊教育長

そのほか、質問ないか。どうぞ。

岡村委員

小金井市では、どの中学校でも、数学の授業は少人数や習熟度別授業を行っているが、個々に応じた指導とか、習熟に応じた指導として、どういう感じで教科書が、練習問題とかそういうので、習熟度とかでの問題の扱いで、よく使えるような教科書、工夫している教科書はあったか。

木下校長

どの教科書も、練習問題については基礎の部分から発展の部分まで、問題はバランスよく適切に配置されている。

一つ例を挙げるとすると、大日本図書は単元ごとに「めあて」を明確に示して、問題発見から問題解決までの流れが示されている。そのために、数学が苦手な生徒にとっては分かりやすいつくりになっているかと思われる。

以上である。

大熊教育長 ほかにないか。よろしいか。
それでは、協議に入る。どうぞ。

福元委員 算数から数学への接続という意味では、1年生の最初の部分の教材の配列は重要だと思う。選定調査資料によると、素因数分解が、正負の数を学ぶ前に配列していることで、算数から数学への接続が図れるとなっている。東京書籍、大日本図書はそのような配列になっているようである。

大熊教育長 なるほど。
ほかにあるか。どうぞ。

浅野委員 先ほどの御説明にもあったが、数学的活動ということが重要なんだという認識を新たにした。私自身が、これまで数学の授業を受けてきた印象だと、一人で問題を解いていくという感じであるが、これからの数学はそうではないという、そういうことなんだろうと思う。実際、教科書を拝見していると、数当てマジックのような非常に面白い活動が幾つも含まれていて、そういったところから深い学びにつなげていけたらいいのかなと感じた。
以上である。

大熊教育長 ほかにあるか。どうぞ。

鮎川教育長
職務代理者 どの教科書も単元の導入で示している課題に工夫が見られると思う。単元全体の学習につながるような課題が示されている。
その中で、数学を日常生活に関連させた課題を掲載している教科書がよいと感じている。
具体的に申し上げますと、東京書籍は選定調査資料にもあるとおり、各単元の導入段階での題材が身近なものを利用しており、興味関心を引くものとなっている。
先ほどの福元委員からの御質問に対して、選定調査委員長の御回答として、啓林館は、単元の導入の課題に身の回りの具体的な事象を取り上げ、そして数学を活用して解決する力を身につけることを重視しているという話があった。この2社については、工夫されて

いると感じている。

東京書籍については、導入ではなくて終末のほうである。単元の終末で日常生活との関連が深い学びにつながると、先ほどの質疑応答で具体的に御説明くださった。深い学びや、学びを広げようというページで、日常生活にどのように数学を役立てていくか、学んだことをどのように私たちの生活で使うことができるかが具体的に示されている。数学を実際の生活に生かす、もしくは数学を学ぶことの意味、楽しく数学を学べることにもつながっていくと思ひ、よいと思っている。

以上である。

大熊教育長

ありがとう。

確かに説明の中にあるが、ちょっと調べてみたが、1年生の一番最初のところに、正の数、負の数というところがあって、生活から入っていくということが、皆どれもできている。生活から入るとはどういうことかと見てみると、マイナス10度という、これはテレビの中で、マイナスの気温があるということで、これはテレビではないが、気温がこうなっている。それから、これは地図帳で出ているという。そういう意味では、ふだん使っている東京書籍であるが、こういうのも生活からきていて、そういう意味ではどれもこれも生活から入っていくという形にはなっている。そういう点で選ぶのが難しい。

よく見てみると、生活の中に入ってきているというのは、もうちょっとしっかり調べていくと、実はその次のページを見てみると、緩やかに数学に入っていくという、このところにマイナスの要素を、地図の中で海の深さみたいなものをマイナスで表している。これも表しているが、少し小さい。実はこれもあるが小さい。これも生活から入っていくというのは、みんな工夫されている。どうしよう。ほら、これも。そうじゃないものもある。ちょっと、ここに書いてある。いきなり問題になっている。

子供たちが、僕はずっと不登校の研究をしていたが、数学ができないことによって自己肯定感を下げることが多くて、最初に数学を勉強するとき、生活の中から緩やかに学習に入っていくということが重要だと思う。その辺のところ細かくもう少し見ていくと、緩やかさという点では、僕は東京書籍が最もゆっくり課題解

決に向かってるなという気がした。ほかはどうか。

御意見をどうぞ。

鮎川教育長
職務代理者

昨年の小学校の教科書採択の際に、教育長から理解境界線についての話があったと思う。数学において理解境界線が、重要と思うが皆様どのようにお考えか。

大熊教育長

数学においても理解境界線は大事だと思う、僕も。今まで理解してきたことであるが、今まで理解してきたことと、これから学ぼうとするときの、学ぼうとするところがよく分からないんだということをしっかり自覚しないと、実は主体的に学ぼうということにはならないわけである。だから、これから新しく学ぶことはどういうことなのかを認識させる順番がしっかりできている教科書が僕はいいかなと思う。

鮎川教育長
職務代理者

ありがとう。

それ、どの教科書の何ページか。

浅野委員

東書の73ページ。前のところでやった問題をまず出して、そこから次の問題へ移っていく。この辺か。

大熊教育長

そうである。

浅野委員

やったところを確認し、実はちょっとだけ違うことをやっていくということを最初に示しているという。

大熊教育長

その、ちょっとだけ違うというところのことをしっかり子供たちに示していくということが、このところはそうである。今まで勉強したのはこれであるが、次からはこう。そうすると、教科書のつくりが同じになっている。

小学校の教科書もこの観点でやられたか。

鮎川教育長
職務代理者

そうだったと思う。前回まで学習したところ、復習の観点プラスモジュールステップになるのか。今度は違うことをやる。私は昨年度の教科書採択の際に、教育長から理解境界線という言葉を教

えていただいて調べた。昨年の観点からいくと、ここに該当すると思う。

大熊教育長 なるほど。1 ページでそれが分かるようになっている。ということか。

ほかのところも一応そういうふうになっているが、今まで勉強してきたことがしっかり示されて、これからこっちを勉強するというのを1 ページで分かりやすく説明しているという意味では、小学校のときに選んだ……、みんな同じ構造になっている。

浅野委員 これはそうである。日本文教出版はというと……。

大熊教育長 こっちは、上が勉強したことで、緑の問いがある、下が新しいことというのは、全部統一されている。

いかがか。どの教科書も問題解決という形では、生活から入って行って、興味関心を高めて本題に入っていくということに関しては、さっきの温度計が全部示されているみたいに、マイナスはこういうことで使うよという形になっているという意味では、どの教科書もしっかりできている、どれを選んでもいいと考えるが、今、鮎川委員から指摘された、子供たちがこれまで学んだことと、それから次に学ぶことをしっかり示している教科書は、小学校のときも同じだったが、東京書籍が一つ優れているという意見だったが、いかがか。東京書籍でよろしいか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長 それでは、数学の教科書は東京書籍に決定する。

次に、理科の説明をお願いします。

山中校長 理科教科用図書の調査研究の報告をする。

全5社になる。

理科においては、観察、実験などを通して科学的に探求する力を養うことが求められている。5社とも見通しを持って観察、実験などを行い、課題解決のための探求が行えるような構成になっている。

東京書籍の教科用図書についてである。1、単元の始まりで、既

習事項の確認と、単元で学習する内容が写真によってまとめられていて、生徒の興味・関心を引きやすいことにある。2、考察のポイントが具体的に示されていることがある。3、縦方向に教科書が大きくなったため、図が大きく見やすくなった一方で、横幅は変わらないので、理科室での観察、実験のときにも扱いやすいなど特徴がある。

大日本図書の教科用図書についてである。各単元の初めに、「これまでに学習したこと」、「これから学習すること」が詳しく丁寧に説明されている。2、実験の後に、結果の例が写真や表などで示されているので結果が分かりやすいことがある。3、教科書の大きさが今までと同じB5判のため、他社と比べ、最小で持ち運びやすいなどの特徴があった。

学校図書の教科用図書についてである。1、全体として発展的な内容を多く含めた構成になっている。2、1時間ごとの課題、見方・考え方を明記されていることがある。3、「探求」や「実験」が見開きで分かりやすく、結果や考察の例が載っているため、生徒が理解しやすいなどの特徴があった。

教育出版の教科用図書についてである。1、図は写真よりもモデルやイラストが多いため、注目すべき部分が分かりやすいことがある。2、各学年とも巻末にカードや星座早見表などの付録がついていることがある。3、「ハローサイエンス」で、科学史や発展的な学習内容に触れる機会を設けているため、上級学年や上級学校への学習につなげやすいことがあった。

最後の啓林館の教科用図書についてである。1、「深めるラボ」で、日常生活と関連する内容や、発展的な内容が要所に掲載されていることがある。2、実験では仮説の例が示されているため、生徒にとって分かりやすいことがある。3、QRコードを利用した動画などの資料が他社よりも多く、自ら学習内容を深めることができる。などの特徴がある。

報告は以上になる。

大熊教育長

ありがとう。

質問はないか。どうぞ。

岡村委員

理科では自然の事物とか現象を科学的に探求する力を育成するた

めに観察や実験が重要であるが、観察や実験についてすごく特徴のある教科書はあったか。

山中校長

2社が特徴的なものとしてあった。

東京書籍は、問題提起をして課題を与え、その後、仮説を立て、観察・実験を行い、結論を導き、最後に活用するという分かりやすい流れになっている。中でも「考察のポイント」が示されているところが分かりやすくあった。

もう一社、啓林館は、実験の手順、まとめ、グラフの書き方など、生徒が理解しやすいような内容が十分に記述されていた。

以上である。

大熊教育長

ありがとう。

ほかはないか。

鮎川教育長
職務代理者

小学校の学習も含めて、既習事項のつながりという点で工夫が見られたら、教えていただけるか。

山中校長

小学校の特徴ということで、3社で見られた。

東京書籍と大日本図書は、既習事項とこれからの学習内容を示すことで、学習に見通しを持たせていた。

学校図書は、各学年の初めの、「どうやって理科を学ぶの？」で、これからの学習過程を説明していた。

以上である。

鮎川教育長
職務代理者

ありがとう。

大熊教育長

ほかはないか。よろしいか。

よろしければ、協議に入りたい。どうぞ。

鮎川教育長
職務代理者

教科書展示会のアンケートでは、理科に限らずQRコードについての御意見がたくさん書かれていた。コロナ禍により自宅で学習する際の役に立つツールの一つとしてQRコードからの学習ということで、本日の採択の場でもそのようなお話が幾つか出てまいった。

アンケートの中で書かれていた御意見としては、啓林館はQRコードが豊富であると記されている。確かに私も実際に拝見して、啓林館のQRコードはたくさん掲載されていると思った。

授業での新たな活用や家庭学習での活用など、学習の可能性が広がっていくと思っている。

また、啓林館は、最初の写真がどれも目を引き、子供たちがわくわくする、小金井の教育のスローガンにわくわくという言葉があるが、まさにわくわくにつながるような写真がたくさんあった。学習意欲を引き出すという点で大変重要だと思っている。

以上である。

大熊教育長

QRコード、多い。

鮎川教育長
職務代理人

はい。

大熊教育長

啓林館のQRコードとほかのところが違うのは、啓林館は動画が見られるようになっている。ほかのところはインターネットサイトを見るようになっているが、そういう違いはあった。

ほかにあるか。どうぞ。

福元委員

コラムは5社とも工夫を凝らしていて、興味関心を引きやすい内容だと思う。

また、実験などの安全面については5社ともきちんと記載している。特に大日本図書と啓林館は、3年生の教科書にも安全面についてかなり細かく記載していて丁寧だと思った。

大熊教育長

安全面に関して、その点ではあまり差をつけられないというぐらい充実していたと思う。

ほかにあるか。お願いします。

浅野委員

先ほど鮎川委員も言っていたが、あと、市民アンケートでも何人かの方が指摘していたが、写真のきれいさが啓林館は際立っているなという印象を受けた。私自身は中学生のときに理科が大変苦手な生徒であったが、私のような生徒でも、この写真には、多分目を奪

われる、その意味で関心を引かれるかなと思った。

それから、どの教科書も振り返りの項目を途中に配置していて、いずれも工夫がなされていると思ったが、中でも異彩を放っているのが啓林館だなと思った。巻末に探求シートというのか、これは別冊ではないのか、切り取って使う形か。巻末に、ここにいろいろやったことを書き込んで課題に取り組むという成果報告書みたいなものがついていて、これは他社に比べて極めて特徴的だなと感じた次第である。

以上である。

大熊教育長

確かに巻末にそういう資料がある。

ほかにあるか。

岡村委員

私も浅野委員と同じ意見で、啓林館の探求実験によって探求的な学習を進めるとか、ただ実験するだけじゃなくて、きちんと内容を理解して、課題を把握して追求し、解決するという理科的な考え方というか、そういう探求活動のきっかけになるためにいいと思うし、あと、本当に写真がきれいで、みんな、目を引かれていいと思った。私は啓林館がいいと思った。

大熊教育長

内容的にはどれも優れている形で、課題解決を進めるという意味では、どの教科書もそういう大きな差はあまり見られないということであるが、写真のきれいさであるとか、目を引くとか、興味関心を深めるという点、それから、探究活動の探究シートがあって、最後にまとめがうまくできるということから考えると、啓林館がよいという意見が多いが、どうか。啓林館でよろしいか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長

それでは、理科の教科書は啓林館に決定する。ありがとう。

次に、音楽（一般）の説明をお願いする。

木下校長

音楽（一般）教科用図書の調査研究の御報告をする。

音楽（一般）は全2社である。

音楽科においては、音楽活動の楽しさを体験することなどを通し

て、豊かな情操を養うことが求められている。2社ともQRコードの活用を取り入れ、教科書の紙面以外にも多くの情報を提供できるようなつくりになっている。

まず、教育出版の教科用図書について御説明する。1、歌唱教材のページに掲載している写真や絵が曲の背景を知る手がかりになるため、生徒が理解を深めやすい。2、歌唱教材の作詞者、作曲者の思いや意図が掲載されているため、生徒に伝わりやすい。3、レッツシングのページがワンポイントアドバイスとして分かりやすいなどの特徴がある。

次に、教育芸術社の教科用図書についてである。1、合唱曲は生徒が歌いやすく、詞の内容が心に響くような曲が多く掲載されている。2、音楽が生活や社会、文化とどのように関わり、どのような意味を持つか生徒が考えるページが設定されている。3、鑑賞では、話し合うポイントを掲載しているため、生徒にとって分かりやすいなどという特徴がある。

報告は以上である。

大熊教育長

ありがとう。
質問はあるか。お願いします。

岡村委員

音楽の歌唱表現では、音楽の知識や技能を生かしながら、表現も創意工夫できるようになることが大事だと思うが、おのおのの教科書はどのような工夫があったか。

木下校長

両者ともにワークシートを活用している。教育出版のほうは創意工夫したことを記入できるような工夫が見られる。それから、教育芸術社のほうは、音楽を形づくる8要素というものを明示しているというところである。

以上である。

大熊教育長

ほかにあるか。どうぞ。

鮎川教育長
職務代理者

日本の伝統音楽や世界の様々な音楽を鑑賞することで、音楽の多様性を理解できていると思っているが、どのような特徴があったか。

- 木下校長 両者とも箏、雅楽、能、歌舞伎などの日本の伝統音楽について、写真や楽譜、絵などを用いて分かりやすく説明をしている。
- 教育出版のほうは、世界の中でも特にアジアの音楽について取り上げている。また、雅楽とオーケストラの共通点と相違点について取り上げられているのが特徴である。
- 教育芸術社のほうは、2、3年生において、世界の諸民族の音楽について、上下巻で2度扱っているのが特徴である。また、中学生が郷土の祭りであるとか芸能、そういった伝統をどのように受け継いでいけばいいのかというようなことが記載されているというのが教育芸術社のほうである。
- 以上である。
- 鮎川教育長
職務代理者 ありがとう。
- 大熊教育長 ほかに御質問はないか。
- なければ協議に入る。御意見をどうぞ。お願いする。
- 福元委員 音楽と生活との関わりについてであるが、教育芸術社は音楽に関わる仕事を紹介するだけでなく、難民キャンプでの教育支援と音楽といったSDGsの視点も取り上げている。
- 一方、教育出版社はアウトリーチや音楽療法など、より身近な話題を取り上げている。
- 大熊教育長 その点、どちらもいいなという感じがした。
- ほかにいかがか。意見、どうか。
- 岡村委員 どちらの教科書も、1年生の初めのほうはト音記号のみの楽譜で同声合唱から始めているが、男子の変声の時期辺りから、次第にヘ音記号が使われて混合合唱に移行している。教育芸術社と教育出版の違いは、変声期について、非常に教育芸術社がよく分かりやすい。例えば、変声期がくる、そのときにあまり大きい声を出さないでほしいとか、すごく丁寧に書いてある。歌を歌うのに、こういうのに注意するという感じで、すごく親切だなと思った。それで、私、ぱっと見ても、こちらの教育芸術社がすごく楽譜も見やすいし、こち

らを御推薦したい。

大熊教育長 変声期の、ここである。教育芸術社の20ページである。確かに心がけることとか、そういうことがしっかり書いてあって、なるほど。ここに、僕はまだ小学生のときと声が変わらないなというものもあっていい。

ほかにあるか。どうぞ。

浅野委員 教科書の見やすさに関して言うと、教育芸術社のほうが各単元のポイントみたいなことを最初のページの左サイドに、アイコンとはちょっと違うが、キーワードを並べる形で書いてある。例えばリズム、旋律とか、強弱、形式とか。これ、ページの左サイドに書いてあると、ここでやること、何がポイントなのかなというのが、見た瞬間に分かるという親切さがあったなというふうに個人的には感じた。

大熊教育長 なるほど。

ほかにあるか。

僕、見やすさという点では、ちょっと差があるような気がしたが、その辺、どうか。感じなかったか。浅野委員、どうか。見やすさは前から言っている。

浅野委員 私もそう思うが、難しいのは、先ほどの地図もそうであるが、明らかに見やすい地図、見にくい地図があるが、何によってそうになっているのかということ、うまく言葉にして説明することができない。なので、こういう理由でこっちのほうが見やすいとは言いづらいが、見た第一印象で、見やすいということは……。

大熊教育長 どっちが見やすかったか。言ってみてほしい。

浅野委員 教育芸術社のほうが、見た瞬間、目に入りやすい。

大熊教育長 目に入りやすい。

どうか。

鮎川教育長
職務代理者

見やすさというのは、個人の、ある程度主観的な部分も関わって
きてしまうので意見を申し上げにくいですが、私自身も教育芸術社の楽
譜など、見やすいと思った。

市民アンケートを参考にさせていただいているが、市民の方の御
意見の中でも、教育芸術社のイラストや読みやすさの点でよいとい
う御意見があったので、私一人ではないと安心した。

表紙について、ざっくりとした感想となるが、重要と思っている。
音楽についてではないが、市民アンケートの中で、道徳について、
表紙は、子供さんたちの心を開くことに役立つことがあると御意見
があった。これは道徳だけではなく、ほかの教科でも同様だ。心を開
くという点から表紙の重要性を考えたときに、この2社の表紙を
比べたときに、心を開くものとして違いがあると、主観的ながら、
感じている。

大熊教育長

主観もあると思うが、違いはある感じがする。

ほかにないか。よろしいか。

主観と言いながらも、市民アンケートにもそういう記述もあつた
し、あと、合唱の扱いが面白かったなと思ったが、同じ曲を1年か
ら3年までやるというのもあつて、そんなことも、一つ評価の観点
に入れたりすると、見やすさという……。なぜか楽譜が見やすいと
いう。いいか。

そういう観点で、教育芸術社のほうが見やすいということになる
と思うが、福元委員、いかがか。いいか。

福元委員

はい。

大熊教育長

それでは、今の観点から言うと、変声期の対応の仕方がしっかり
書いてあり、楽譜も、主観になるかもしれないが、どちらかとい
うと見やすい、そういう教育芸術社にしたいが、いかがか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長

それでは、音楽の教科書は教育芸術社に決定する。

次に、器楽合奏の説明をお願いします。

木下校長 続いて、音楽の器楽合奏教科用図書の調査研究の御説明を申し上げます。

こちらと同じように全2社である。

音楽科においては、器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫することが求められている。2社とも生徒が創意工夫をしたくなるように、生徒の興味関心を高めるようなつくりとなっている。

まずは、教育出版の教科用図書についてである。1、比較的容易な曲、難易度の高い曲など、様々な曲を掲載しているため、生徒の実態に応じて楽曲を選択しやすい。2、親しみのある曲、クラシックの名曲、ポップスなど、幅広いジャンルの曲が掲載されている。3、単元ごとの目標が太字で掲載されているため、生徒が目標を持って取り組みやすいなどの特徴がある。

次に、教育芸術社の教科用図書についてである。1、各楽器の演奏方法の写真や図が分かりやすく詳細に記されているため、生徒が理解しやすい。2、生徒が一度は聞いたことのあるような名曲をアルトリコーダーや箏で演奏できるよう工夫されている。3、「アンサンブルセミナー」と「アンサンブル」で、基礎と発展に分かれているため、学年や習得具合によって教材を選ぶことができるなどの特徴がある。

報告は以上である。

大熊教育長 ありがとう。

質問はあるか。

岡村委員 楽器の演奏の仕方の説明、おのおのはどんな特徴があるのか。

木下校長 両者とも写真を用いて、楽器の構え方であるとか演奏方法を分かりやすく示している。

教育出版は曲ごとに知識、技能について解説があり、曲が進むにつれて演奏難易度が上がるような構成になっている。

教育芸術社のほうは、「Lesson 1」、「Lesson 2」と段階を追って技能の習得ができるような形になっている。

以上である。

大熊教育長 ほかにないか。願います。

鮎川教育長
職務代理者 ほかの教科と似たような質問になってしまうが、小学校との学習の接続という点ではどのような工夫がされているか教えていただけるか。

木下校長 小学校の学習の接続という点でお話しすると、リコーダーが接続の教材になってくる。小学校ではソプラノリコーダーを使うが、中学校ではソプラノリコーダーだけではなくて、アルトリコーダーも使うようになる。教育出版は両方のリコーダーの指の運びの関係を図で示している。

 教育芸術社は、両方のリコーダーの楽譜を載せて演奏できるように工夫している。

 以上である。

鮎川教育長
職務代理者 ありがとうございます。

大熊教育長 ほかにあるか。
 なければ、協議に入る。御意見をどうぞ。

浅野委員 今、御説明いただいたアルトリコーダーとソプラノリコーダーの関係であるが、私はこれが小中学校で大変苦手だったので、トラウマになっているくらいであるが、2つ、見比べたときに、両方の楽譜をストレートに並べてもらったほうが、苦手な子供にとっては大変ありがたいなという印象がある。だから、教育芸術社、こういうふうにベタにというか、ストレートに並べていただけると助かるという、そんな感想を持った。

大熊教育長 こういう違いがあったのかと。なるほど。
 ほかにないか。

岡村委員 教育芸術社のほうが楽器の構え方や演奏方法の説明で、写真がいっぱい出ていて分かりやすいと思う。曲ごとに教育芸術社、目標を示して、楽譜を載せて、解説やまとめをするという順で示されて

いて、この流れは大変分かりやすいと思う。

大熊教育長 写真が大きくて見やすいというのは、教育芸術社さんのほうが見やすいというのは確かである。この辺の写真。
ほかにないか。どうぞ。

福元委員 選定調査資料にもあるが、教育芸術社は基礎的な「アンサンブルセミナー」と発展的な「アンサンブル」に分かれている。学年や習得度合いによって教材を選べるところがよいと思う。

大熊教育長 なるほど。選べる。
ほかにあるか。よろしいか。
今の意見を総合して言うと、音楽の教科書も教育芸術社を選んで
いるが、やはり楽譜の見やすさというのも、こちらのほうが見やす
いと感じる。それから、写真が適切でよく分かりやすい。それか
ら、アルトリコーダーとソプラノリコーダーの楽譜の違いが明確に
なっていて、トラウマを起こさないで学習に取り組める可能性があ
るということで、教育芸術社でよろしいか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長 それでは、音楽の器楽の教科書は教育芸術社に決定する。
次に、美術の説明をお願いします。

山中校長 それでは、美術の教科用図書の調査研究の報告をする。
美術は全3社になる。
美術科においては、美術の創造活動の喜びを味わい、感性を豊か
にし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
ことが求められている。3社とも生徒が表現方法を創意工夫し、創
造的に表すことができるようになるための工夫が見られていた。
1点目、開隆堂の教科用図書についてである。1、題材ごとに目
標、ねらいが設定されていて分かりやすいことがある。2、図版が
大きいいため、鑑賞がしやすいことである。3、学年が上がるにつれ、
内容が学校から地域、社会、世界へと広がっているため、美術が社
会の中で、どのような役割を果たしているのかが分かりやすいなど

の特徴があった。

光村図書の教科用図書についてである。1、発想や構想の様々な手立てが紹介されていることがある。2、「版で表す美しさ」では、紙の質を変えているため、生徒が興味を持ちやすいことがあった。3、QRコードによって立体作品を全方向から見ることができるので、生徒が表現するとき大変参考になるなどの特徴があった。

日本文教出版の教科用図書についてである。1、各題材の学びの目標が分かりやすく示されていることがある。2、原寸大の写真資料を掲載しているため、より実物に近い体験をしながら鑑賞活動を行うことができるということがある。3、過不足なく絵画や彫刻などの分野、デザインや工芸などの分野が盛り込まれているなどの特徴があった。

以上で報告を終わる。

大熊教育長

ありがとう。
質問はないか。どうぞ。

浅野委員

今次の指導要領の下では日常生活と美術の関連ということが強く意識されていると思うが、その点、教科書に工夫はあるか。

山中校長

お答えする。
どの教科書も日常生活の関連には力を入れていたが、特に開隆堂は、身近なものを見ることから始めて、段階的にデザインや工芸などへと発展していく構成になっている。学習内容が日常生活にどのように生かされているのかというところが具体的に示されていた。
以上である。

浅野委員

ありがとう。
ほかにあるか。

岡村委員

小学校の学習との接続ということで、特徴のある教科書はあったか。図画工作からいきなり美術は、すごい発展というか、どう子供たちは受け取るのかなと思った。

山中校長

小学校との接続という点で特徴のあるのは光村図書であった。光

村は、巻頭の、「美術って何だろう？」というところで、小学校の図画工作とのつながりについて掲載している。また、美術で学習することや、教科書やスケッチブックの活用の仕方について説明などしていた。

以上である。

大熊教育長

ほかにあるか。

なければ協議に入る。御意見をどうぞ。

鮎川教育長
職務代理者

どの教科書も基本的に一つの学習内容を見開き2ページで扱っているため、大変分かりやすい構成になっていると思う。

その中で、開隆堂は、学習の目標を観点ごとに細かく示している。資料の写真は全体的に大きめで鑑賞しやすいと感じた。

光村図書と日本文教出版は、ポイントとなる写真を大きくしているので、めり張りのある構成になっている。また、光村図書の写真は創作の流れが分かりやすいと思った。創作の流れに沿って、例えば71ページ、65ページもそうである。61ページの水彩絵の具を使った着彩の流れなども大変分かりやすく書かれているので、美術の教科書としてよいと思った。

以上である。

大熊教育長

なるほど。

ほかにあるか。

順番を示しているということでは、描く順番か、こういう。

鮎川教育長
職務代理者

そうである。

大熊教育長

どういうふうに描いたらいいのかを示してあって、こういう形でやると、自分でも描いてみようという、順番は今まであまりなかったんじゃないかなと思った。

鮎川教育長
職務代理者

得意なお子様とか天才的な方は、こういうものは必要ないと思うが、一般的な普通のお子様にとっては、ある程度の手順があると学びやすいと思う。

大熊教育長 鉛筆のデッサンだと物すごく難しいが、順番に書かれているという
ようなことは、簡単なことであるが、全部の教科書にそれがある
わけではない。

ほかにあるか。

岡村委員 光村で1年生の版画の版で表す美しさのところ、紙質がちょっ
と変わっているところがあって、残り半分使うんだなど、ちょっと
遊び心が、アートであっていいのかなと思った。

大熊教育長 なるほど。

ほかにあるか。どうぞ。

福元委員 私は選定調査資料の、光村図書のところを書いてある「鑑賞と表
現が一つの題材の中で一体的に学べる構成となっている」というと
ころに引かれた。

鑑賞によって作品に興味を持ち、自分の作品づくりのための発想
に生かし、表現するということで、主体的で深い学びにつながるな
と思う。

大熊教育長 そうである。

美術でトラウマを生まないようにするためにはどうしたらいい
か、浅野委員。

浅野委員 実は、私、美術も結構トラウマになっており、でも、今の中学生
は、こんなすてきな教科書を使って勉強できるんだなど羨ましく思
った、教科書を読みながら。

今、該当箇所を探して見つからないが、自画像とかゴッホと
かを題材に、自分を考えるというような構成になっていて、これは
非常にいいなと思った。これは光村だったか、開隆堂だったか、今
すぐ見つからないが、自己分析みたいなことを、絵をかくのと併せ
てやるというような構成になっていて、とても面白いなと思った。

それから、先ほど説明にもあったとおり、あと、選定資料にも書
かれていたとおり、QRコードの配置がポイントの一つかなと思っ
た。QRコードが見やすいのは光村と開隆堂かなと思う。開隆堂の

ほうはある意味で一番見やすく、つまり単元のタイトルの横に必ずQRコードが入る形になっている。だから、必ずそこにあると分かっているのも使いやすいと思う。ただ、それを実際にスキャンして見てみたいと思わせるかどうかというところと言うと、光村のほうがそういう意味では魅力的かなと思った。例えばこれで見ると音声が入るとか、これで見ると360度見られるとかいう形で、該当箇所の横に見やすく配置されているということがあって、こちらのほうが実際見てみたいと思わせる力があるかなと思った。

以上である。

大熊教育長 僕も手元がないが「最後の晚餐」の絵で、どれだったか。

浅野委員 何社か。

大熊教育長 忘れてしまった。「最後の晚餐」の絵で、トレーシングペーパーがあつて、遠近法を……。

浅野委員 光村か。

大熊教育長 光村だったか。

浅野委員 だった気がする。違うか。

岡村委員 2年生か。

大熊教育長 あれ、実はちょっと僕も、今、手元がないが、うっすらとやってみたが、本当に……。

浅野委員 これか。

大熊教育長 そうである。「最後の晚餐」のところ、遠近法のところ、各……。

浅野委員 2、3年生の10ページである。「最後の晚餐」で、トレーシングペーパーがついている。

大熊教育長 トレーシングペーパーがあって、このところ、全部線を引くと一点に集中する。これ、一回やってみるだけで違うなど。こういうのが……。そんなところもある。

各社それぞれよいところもあるが、今、浅野委員が言われたように、QRコードを読みたいと思えるようなところに配置されている点、それから、作品をつくる時の手順が明らかになっている点、その点から考えて、光村図書がよいと考えるが、いかがか。よろしいか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長 それでは、美術の教科書は光村図書に決定する。
次に、保健体育の説明をお願いします。

木下校長 保健体育教科用図書の調査研究の御報告をする。
保健体育においては、全4社が対象になる。
保健体育科の学習を通して、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することが求められている。4社ともに日常生活に関連した内容を多く取り上げることで、生徒が興味関心を持ち、健康について自他の課題を発見し、解決に向けて学びを深めていけるような構成になっている。

まず、東京書籍の教科用図書についてである。1、単元の初めに、小学校で学習したこと、中学校で学習すること、高校で学習することなどが簡潔に書かれているため、学習の見通しを持ちやすい。2、内容ごとに学習課題が提示され、資料を基に考えるような問いが設定されている。3、グラフが多く用いられていて、グラフを読み解く内容が発達段階に応じているなどの特徴がある。

続いて、大日本図書の教科用図書についてである。1、単元ごとに話合いやレポート作成を促す項目が設定されている。2、各ページに、「やってみよう」、「話し合ってみよう」、「調べてみよう」など、課題解決に向けての工夫がされている。3、一つの単元にグラフが一つは用いられているため、グラフを読み解く力を身につけられるなどの特徴がある。

次に、大修館の教科用図書についてである。1、巻頭に教科書の使い方や保健体育の学び方を通して身につけてほしいことが示さ

れている。2、単元の初めに、「小学校で学習したこと」、「この単元で学習すること」、「高校で学習すること」が記載されているため、生徒が小学校から高校までの学習を意識することができる。3、資料は日常生活と関連づけがなされているため、生徒の興味関心を引きやすいなどの特徴がある。

次に、学研みらいの教科用図書についてである。1、日常生活との関連づけがなされているため、生徒の学習意欲が湧きやすく、主体的・対話的な学習活動を行いやすい。2、章ごとのまとめが選択式や記述式などの問題形式のため、振り返りが分かりやすく、また、巻末資料が豊富にあるため探求型の学習を行いやすい。3、ページ数は多いが、日常生活に役立つ内容の資料が多く、授業での活用がしやすいなどの特徴がある。

報告は以上である。

大熊教育長

ありがとう。
質問のある方はお願いします。

岡村委員

心の健康を保つためには欲求やストレスに適切に対処する必要があるが、心の健康という点で特徴のある教科書はあったか。

木下校長

心の健康の点ということであるが、これはどの教科書も心の健康については適切に取り扱っているし、分かりやすく説明もなされている。取り上げるとしたら大日本図書は、ストレスへの対処の技能として、腹式呼吸や筋弛緩法などの様々な方法を掲載している。また、大修館や学研みらいもリラクゼーションの方法などを取り扱っている。

以上である。

大熊教育長

ほかにあるか。どうぞ。

鮎川教育長
職務代理者

小学校からの学習の接続という点を先ほどから伺っているが、それに合わせて保健体育に関しては、高校の学習への接続ということも大切かと思っている。この点で工夫が得られたものがあったら教えていただけるか。

- 木下校長 これも先ほど説明を多少したが、各教科書とも小学校で学習したこと、中学校で学習すること、それから、高等学校で学習することなどを簡潔に記載されているというようなところがある。
- 例を申し上げますと、東京書籍と大修館は、単元の初めに記載していたり、大日本図書と学研みらいは単元ごとに記載していたりなど、それぞれ見通しを持って学習に取り組むことができるような工夫がなされている。
- 以上である。
- 鮎川教育長
職務代理者 ありがとうございます。
- 大熊教育長 ほかにないか。
- なければ協議に入りたい。御意見をどうぞ。
- 鮎川教育長
職務代理者 どの教科書も、1時間の授業、単元を見開き2ページで取り扱っている。大変見やすくてよいと思った。
- 学研みらいに関しては、内容によっては4ページで取り扱っているものもある。選定調査資料でも、学研みらいに関しては、大事なものの、膨大な内容については4ページにわたって記載されており、分かりやすいと記載されている。
- 以上である。
- 大熊教育長 学研みらいは、そういう意味では一番細かく、読み物資料としても読み応えがあったと思った。
- ほかにないか。
- 浅野委員 主体的・対話的で深い学びという例のキーコンセプトに関して言うと、どの教科書も、もちろんそれに準拠しているが、記述のめり張りのつけ方ということで言うと、東京書籍は比較的明確に構造化されているなど思った。主体的な学びに対応する場所、対話的な学びに対応する場所、最後にそれを深める場所というふうに、こう、こう、こう、囲まれていて、それぞれの構造がはっきり分かりやすいようになっているということが目についたなというのが1点と、もう一つは、今、学校現場で、多分非常に重要な新しい問題の一つ

として、よく触れられる性的多様性の問題に関して、これに触れている教科書は学研みらいと東京書籍の2冊である。学研みらいのほうは、いわゆる事例紹介、そういう活動を担っている方を、人を紹介する形になっており、東京書籍のほうは、もう少し一般的な説明、性的多様性についての説明をしている。指導要領自体が異性に対する関心という言葉を含んでいるので、本文の記述は、それに準拠するとそうならざるを得ないところもあるが、それに加えて、異性に対して関心を持つ人だけではないし、そもそも関心を持たない人もいるということも含めて、多様性について正面からきちんと記述しているのは東京書籍だと思った。

大熊教育長 そうである。それは僕も思った。学習課題が明確になって、それを話し合っ、最後、まとめるということが、このページでしっかりできているのは、どのページをとっても東京書籍が構造的になっている。そういう意味で、課題はここに書いてあるだけで、どういうふうに話し合ったらいいかというのがなくて、資料レベルになっている。この会社はそういう意味では課題があるが、ここをどうしたらいいかというところが抜けている。この会社は課題をつかむというところがしっかりあって、考える、調べるがあるが、まとめがない。3つがそろっているところは東京書籍かなというのが特徴として上げられるのかなと。

ほかにあるか。どうぞ。

福元委員 応急手当の方法はどの教科書にも載っているが、調査研究資料にあるが、東京書籍は、「包帯法」、「心肺蘇生法」、「AED」について実習資料として掲載している。注意点、図、写真での説明が大変分かりやすく書かれているように感じた。

大熊教育長 細かく一つ一つ書いてある。それは確認した。

ほかにあるか。

岡村委員 今、福元委員が言ったように、応急手当の詳しい説明などは、一人で手当できるようにといろいろ書いてあって、自分の今の健康を守るという保健の学習にかなっていると思う。それで、結構市民アンケートでよかったのが学研で、それは、心肺蘇生の写真が載って

いて、すぐできそうに見えたので、すごくよくていいと思う。また一方、生涯にわたる健康を守るための保健の学習として、今、がん教育というのが進められている。全ての教科書ががんの発生の基礎から検診の重要性、それを禁煙とか飲酒の害と結びつけて、子供たちに注意を呼びかけていて、とてもいい教育だと思うが、中でも東京書籍はがんの発生率と、がんの早期発見と回復について棒グラフも載っていて、非常にショッキングというか、おうちに帰って、お父さんやお母さんにそれを話していただいて、全体の健康に、みんなの健康に役立つかなと思って、非常にいい内容だなと思った。

なお、現在、新型コロナの感染症が猛威を振るっているが、どの教科書も感染症について適切に、本当に手の洗い方も載っていたりとか、すごく適切であるが、今さらすごいなと思ったが、その中に、東京書籍では1918年のスペイン風邪のときのセントルイス市長が出した緊急事態宣言を取り上げて、宣言の有効性について考えるという課題を選定している。個人の感染症対策だけではなくて、社会全体の感染症対策を考える点で大変よいと思った。

すごく市民の評判がよかった学研と東京書籍であるが、私は、表紙をぱっと見たときに、東京書籍は車椅子の青年が元気よく運動していてみんな楽しそう、学研の表紙は高齢者と車椅子の人がただただずんでるだけで、東京書籍の方が勉強したいなという気がするので、私はやはり一押しが東京書籍になった。

大熊教育長

今のところ、ちょっと付け足ささせていただくと、がんが発見されたときの進行度合いと生存率というグラフが描いてあるが、2社描いてある。分かりやすいほうが東京書籍である。今、小金井医師会ともがん教育について進めるという形で取り組ませていただいている現在であるが、ほかの会社は、ここは書いていない。ここは書いてあるが、グラフがこれである。見にくい。これは書いていない、学研は。となると、課題解決と解決の方法、まとめという3点がしっかりそろっていること、たくさんあったが、がん教育の資料が充実していること、それから、感染症予防のことに関しては、緊急事態宣言のことまでの記述があること等々を考えると、今のところ、東京書籍がよいという意見が多いが、いかがか。よろしいか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長 それでは、保健体育の教科書は東京書籍に決定する。
次に、技術・家庭（技術分野）の説明をお願いします。

山中校長 それでは、技術・家庭（技術分野）教科用図書の調査研究の報告
をする。

技術分野は全3社になる。

技術・家庭科、技術分野の学習では、ものづくりなどの活動を通して、よりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力の育成が求められている。3社とも生活を工夫、創造しようとする態度を生徒が育成できるよう、興味・関心を持たせるような工夫が見られていた。

東京書籍の教科用図書についてである。1、最初のガイダンスの内容が多方面からアプローチされているため、生徒が興味を持ちやすいことがあった。2、材料の特徴や使われ方や加工方法は、題材例が多く、身近でイメージしやすい構成になっている。3、情報に関する技術のプログラムの作成では、問題解決例が多数掲載されているため、考えを深めやすいなどの特徴があった。

教育図書の教科用図書についてである。1、全体的に本文の文字が大きくて見やすいことがある。2、別冊のハンドブックを設けることで、作業についての内容が充実して見やすく、特に生物育成については実習例を写真によって丁寧に説明をしているということがあった。3、細かい部分を拡大して表示するなど、写真やイラストが大きくて分かりやすいなどの特徴があった。

開隆堂の教科用図書についてである。1、全体的に要点を押さえていて、ほどよい分量である。2、図は写真だけでなくイラストも多用されているため、分かりやすいこと。3、日本各地の伝統的な技、材料、工芸マップを掲載しているため、最新技術だけでなく、昔から受け継がれている技術や技について学ぶことができるなどの特徴があった。

報告は以上である。

大熊教育長 ありがとう。
質問はあるか。お願いします。

鮎川教育長
職務代理者 技術は小学校にないし、高校でも必修ではないかと思うが、技術の授業は、ものづくりなど、実践的、体験的な活動を行う。そのような点で工夫が見られたか。

山中校長 3社あるが、特に東京書籍である。東京書籍では、身近なものを学習内容に関連付けている写真を比較的多く掲載している。また、生活や社会を支える情報の技術についての説明や写真が2社よりも充実していた。
以上である。

鮎川教育長
職務代理者 ありがとう。

大熊教育長 ほかにあるか。どうぞ。

浅野委員 課題解決的な学習という観点から見たときに、何か特徴的な工夫はあるか。

山中校長 問題の発見や課題の設定についてはどの教科書も取り上げているが、その中でも開隆堂は、課題解決に向けて評価改善の部分まで詳しく掲載されていて、分かりやすいつくりになっていた。
以上である。

浅野委員 ありがとう。

大熊教育長 今のは非常にあれであるが、全くその記述がない教科書がある。この教科書は課題解決の課題が設定されていない。昔のタイトルの教科書かなと思った。

それから、もう一つは、前から気になっているところであるが、課題の出し方が違っていて、同じ水産生物を育てる技術のページで比べてみると、話し合ってみよう、養殖と天然は、天然の割合のグラフを見て分かったこと、気づいたことを話し合おうという課題になっている教科書と、スーパーマーケットなどで売られている天然魚、養殖魚はなぜ値段が違うのだろうかという問いをかけた教科書がある。これ、どっちの問いが主体的になれると思うか。

話し合ってみようと言われたら、これはやらされている。何で値段が違うかといったら考えてみたくなる。こういう違いが僕はすごく大きいような気がした、という付け足しである。そんなことを僕は思った。

どうぞ、御意見。

浅野委員 これも外形的なことであるが、教育図書の教科書は重い。別冊がついているせいか、かなり厚さが違って、手に持った感じも大分重くて、別冊の取り回しの仕方も問題になるだろうなということがあって、やや教科書の、別冊も含めての取り回しというか、生徒たちの負担を考えると、少し敬遠される場所はあるかなと思った。以上である。

大熊教育長 これは字が大きい。内容が濃いという意味ではなくて、字が大きいことによって厚さが増している感じはする。ほかにあるか。

福元委員 各ページの下部に、東京書籍は「技術の工夫」、開隆堂は「豆知識」というコーナーで、ちょっとした説明をしている。教育図書にはこのような部分は見つからなかった。比較してみると、東京書籍は学習内容の説明の補足という意味合いが強く、開隆堂は文字どおりの豆知識で、生活に近い内容が書かれているように感じた。以上である。

大熊教育長 ほかにあるか。

岡村委員 安全に作業するという点では、どの教科書も適切に記載していた。その中でも、開隆堂は巻頭で折り込みページになっていて、他のページと同時に確認できるのがよいと思ったし、また、チェックリストがあるところも分かりやすい。
実は、私、皮膚科で開業しているが、近所の大学や高校、小学校で、技術や理科で結構けがをしたり、やけどをしたりする人がいて、このように安全面を強調して、学校以外でも、ハンダごてでやけどした小学生とかいらして、やっぱり学校で安全なことを教えていただいて、安全な作業を身に付けてもらいたいと思う。

大熊教育長 その点で、ちょっと聞き忘れた。どの教科書がいい。

岡村委員 開隆堂が、一番前に書いてある。

鮎川教育長
職務代理者 一番頭じゃない、折り込みの……。

岡村委員 そうである。ここに、案外大切である、髪を束ねるとか、防塵マスクをするとか、一番困るのが靴である。足にサンダルで化学実験をしていて、足をやけどされていると、君たちは何を勉強してきたんだと思ってしまう。安全第一でお願いしたいので、ここはよく中学生でも分かるように書いてあるので、結構軽視されるが、とても大切なことなので、この教科書は、切り取っておうちに置いていてもいいと。

大熊教育長 分かった。
ほかにあるか。

鮎川教育長
職務代理者 先ほど、ものづくりの観点で質問したが、私は技術の授業を通して、小金井の子供たちには豊かで快適な生活を創造できるような力を身につけてほしいと思う。そのためには、課題解決の力を養う必要があると思う。

先ほどの質疑応答にもあったが、開隆堂の課題解決的な学習の流れは分かりやすいと思った。また、選定調査資料にも、開隆堂について、ものづくりを通して問題を解決する力の育成が明確になっていると記されている。この点は大変重要だと思う。

市民アンケートの中で、技術のプログラミングの項が入っていることに関して、御心配の御意見を頂いている。本日、教科書採択の場であるので、プログラミングについて多く語るのは時間的に厳しいが、各教科書にプログラミングは書かれていて、記載内容も様々、差異がこの部分は大きいと思う。ただ、ものづくりという観点から見ると、実際にプログラムを書くことが目的ではないと私は個人的に思っている。

選定調査資料でも、プログラミングの差異については記載してい

ただいていないので、先生方と私の思いは一緒なのかと、一方的に思っている。市民の方々の御懸念については、丁寧に御理解いただくことが必要と思っているが、御心配いただくような点は小金井市の教育においてないと思っている。

以上である。

大熊教育長

何か御意見はないか。よろしいか。

何しろ安全第一に考えていくと岡村委員から言われた。その資料が充実している、それで課題解決のための問いも明確に示されているという点では開隆堂がよいのではないかということになるが、いかがか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長

それでは、技術の教科書は開隆堂に決定する。

次に、技術・家庭科（家庭分野）の説明をお願いする。

山中校長

それでは、家庭分野の説明をさせていただく。

技術科と同じく全3社になる。

家庭分野の学習では、衣食住などの実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活を実現できるような資質・能力の育成が求められている。3社とも食育の充実など、よりよい生活を実現するための態度を生徒が育成できるような構成になっている。

東京書籍の教科用図書についてである。1、中学生のキャラクターが登場し、課題の発見や気づきから考えを深めるためのヒントとなるようなコメントが述べられていることがある。2、生活に関わる事例が充実していて、学習内容に関連した各領域の仕事のプロからのメッセージが掲載されていること。3、新学習指導要領で新しく取り入れられた「高齢者とのかかわり」の内容が詳しく掲載されていた。

教育図書の教科用図書についてである。1、教科書に直接書き込んだり、巻末のシールを貼りつけたりできるページがある。2、挿絵や写真の量が多く、資料集など、他の教材は必要ないということがある。3、「考えてみよう」や、「話し合ってみよう」など、生徒の活動を促す内容が豊富であるなどの特徴があった。

開隆堂の教科用図書についてである。1、各分野の学習の初めに、自分の興味関心や疑問を投げかけるページがあり、主体的に学習に取り組むことができる。2、関連資料、挿絵、写真が充実していて、特に指導が難しいまつり縫いの縫い始めや糸のすくい方の写真が大変見やすいことなどがあった。3、見やすく読み間違えしにくいユニバーサルデザインフォントを使用しているなどの特徴がある。報告は以上である。

大熊教育長

ありがとう。
質問はあるか。

岡村委員

一時期と違い、最近、食育、食育とあまり言わなくなったが、食育の推進という点において特徴のある教科書があるのか。

山中校長

お答えする。
どの教科書も、食に関する学習内容は適切に取り扱っているが、その中でも、東京書籍と開隆堂では、お雑煮などの伝統食や地場野菜など、地域の食材を扱った調理実習例を掲載しているといった工夫が見られる。
以上である。

大熊教育長

ほかにあるか。
どうぞ。

福元委員

SDGs についての取扱いで、工夫は見られたか。

山中校長

一番工夫が見られたのは開隆堂である。開隆堂では「話し合ってみよう」で、SDGs の 17 の目標のマークを掲載することで、どの目標と関連するのかを分かりやすく示していた。
以上である。

大熊教育長

ほかにあるか。
なければ協議に入る。御意見をどうぞ。

鮎川教育長

先ほど、技術の福元委員のご意見と同様であるが、各ページの

職務代理者 下部に、東京書籍は生活メモ、開隆堂は豆知識というコーナーを設けて説明がされている。教育図書は、先ほど技術のところでは浅野委員のご意見と同様に、厚いと思う。

以上である。

大熊教育長 ほかにあるか。

実は同じことであるが、僕のほうで見つけたのは、今の食育のことに関して、全然そういう課題の書いてない教科書と、ここの違いを分かってもらいたいが、食品の安全について、これまで新聞などで取り上げられたニュースや、その内容を調べましようというものである。もう一つは、食べ残す理由は何か、好き嫌いがあるとか言っているときに、日本は食品ロスが多いと話が進んでいく。この違いが僕は大きいような気がする。食べ残す理由が開隆堂で、東京書籍はニュースを調べている。ニュースを調べてみようというのは、それを聞いた瞬間に、主体的にニュースを調べたいと思えるようにはならない、僕はそう思うが、どうか。この辺を分かってもらえると僕はうれしい。まだほかにも比べてみると、課題の出し方が大きく違うように思う。

浅野委員、その辺いかがか。

浅野委員 今、言われて気がついたことなので、ちゃんと自分の目で精査していないが、問いかけの仕方に、引きつけるものと引きつけないものがあるのは間違いなくて、中学生は、その辺、敏感かなと思う。ありきたりな質問なのか、それとも、本当に自分の好奇心を刺激する質問なのか、わりとストレートに反応してくるなと思う。

鮎川教育長 私も教育長の御指摘を伺って、はっと思った。ニュースをとという手段を与えられて、その手段をやろうというものと、課題の本質とは異なる。自分の好奇心を満たすような形で調べて、そこでの手段は何でもいいというところまで広く考えられることも重要なポイントになると思った。

大熊教育長 ここのところは、僕もすごくこだわりがあって、見ていると分かるが、調べてみようと、ニュースや、その内容を調べてみようとやってあって、次に人形が出てきて、テレビなどではよくニュースで

やっているよね、食品の不正表示や食中毒に関するニュース、なかったかなとかと言って、完全に誘導している。あった、あったと言わせることなのか。問題を自分事化するというのは、そういう問いじゃない気がする。その辺、もう一つ、教科書を選ぶ、さっきと同じことであるが、技術・家庭科の問いの仕組みというのが子供たちの今までの生活を振り返るきっかけになる問いなのか、調べさせるということを問いとするか、その辺は僕は大きく違ってくるんじゃないかと思う。いかがか。

岡村委員 私、やっぱり写真が多くて見やすいので、開隆堂がいい。

大熊教育長 ありがとう。その点も必要かと思う。

大分疲れてきた。でも、子供のためにしっかり選びたい。課題の提示が子供のこれまでの生活をしっかり振り返られる内容になっている、そして、写真が見やすいということ、それから、SDGsについてしっかり取り上げられている開隆堂はいかがか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長 それでは、家庭科の教科書は開隆堂に決定する。
次に、外国語の説明をお願いします。

木下校長 外国語（英語）教科用図書の調査研究の御報告をする。

外国語（英語）については全6社になる。外国語（英語）の学習においては語彙、表現、文法などの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけることが求められている。6社ともに、英語によるコミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて表現したり、伝え合ったりする活動を豊富に取り入れている。

具体的に説明する。

東京書籍の教科用図書について御説明する。1、英語学習の5領域【聞く・話す（やりとり）・話す（発表）・読む・書く】のうち、どれを重視した活動なのか、アイコンを用いて示している。2、UnitごとのRead & Thinkという、読んで考える内容が左ページに収まっている。3、唯一、A4判型でサイズは大きい、文字列の間は広

く、イラストや写真のバランスがよく、見やすいつくりになっているというのが特徴である。

次に、開隆堂の教科用図書についてである。1、3年間を通じて各単元にRetellのページがあり、自分の言葉でスピーチをするRetelling活動を重視している。2、1年生の英文は全て対話文になっているため、生徒が英語を実際に使う場面を想定しながら学習をすることができる。3、「Try」、「Interact」といった活動で、スピーキングの即興力を育成することができるなどの特徴がある。

次に、三省堂の教科用図書についてである。1、自国の文化、海外の文化、環境問題、平和の大切さなど、様々なテーマの題材をバランスよく扱っている。2、1年で「車椅子バスケット」、2年で「My Dream」、3年で広島原爆を扱った、「The Story of Sadako」や、キング牧師の「I Have a Dream」など、成長段階に合わせ、じっくりと取り組ませたい教材が多い。3、長文は、ある程度の読解力のある生徒がさらに力を伸ばせる分量であるなどの特徴がある。

続いて、教育出版の教科用図書についてである。1、「Classroom English」の説明のページがイラスト主体で分かりやすい。2、即興のスピーチ活動に使用できるカードが附属している。3、3年でディベートの手法について詳細に扱うなど、発展的な言語活動に多くのページを割いているなどの特徴がある。

次に、光村図書の教科用図書についてである。1、帯教材が充実していて、教員が指導しやすい内容になっている。2、「Let's Talk」を通して即興力を育成することができる。3、各学年の巻頭の「英語の学び方ガイド」が生徒にとって非常に分かりやすい内容である。学年に応じた学習方法、例えば1年ではなぜ英語を学ぶのか、小中の英語の違い、英語を学ぶためのポイントを紹介していて、主体的な学びを促すことができるなどの特徴がある。

最後に、啓林館の教科用図書についてである。1、「Let's Talk」で扱われている重要表現が、単に文法事項と関連させるだけでなく、実生活に則した表現になっている。2、3年間を通して各Unitが、Part 1 → 2 → 3 → Read and Thinkの流れで統一されている。3、言語活動の各分野に対応するセクションが設けられているため、身につけるべき能力が明確になっているなどの特徴がある。

以上が報告である。

大熊教育長

ありがとう。
御質問はあるか。どうぞ。

岡村委員

中学に入るときに、すごく個人の能力の差というか、習熟度とかが全然違ってきているのかなと思うので、それに応じた個々に対応するための用意といったらおかしいが、教科書はどういうものか
いか。

木下校長

お答えする。
この中で特徴あるものとしては、光村図書については、中間層の生徒に焦点を当てたつくりとなっている。導入に漫画を取り入れるなどで、英語が苦手な生徒でも教材に取り組みやすくなるような工夫が見られる。また、英語が得意な生徒に向けては、自分の言葉で英語を話す「Retelling」を活用しているなど、習熟に応じて指導しやすいつくりになっている。
以上である。

大熊教育長

ほかにあるか。どうぞ。

浅野委員

主体的・対話的で深い学びという点から言うと、特色がある教科書はあるか。

木下校長

お答えする。
主体的・対話的な学びという点で考えると、これも光村図書が一つの特徴があると考えられる。こちらについては、教科書の流れを統一して、学習の進め方に一貫性を持たせている、そういう見通しを持って学習に取り組めるように工夫されている。
題材について、自分なりの意見を持ち、発表を通して理解を深めるようなつくりになっている。深い学びという点で考えると、三省堂に特徴があるかと思われる。じっくりと取り組んで、より深く考えさせたいテーマの教材を取り入れているということである。教科横断型な題材のため、深い学びにつなげることができると考えられる。
以上である。

浅野委員 ありがとう。

大熊教育長 よろしいか。
それでは、これより協議に入る。御意見をどうぞ。

福元委員 教科書展示会のアンケートにも幾つもあったが、率直に言って英語の学習の内容は、1年生の時点でもかなり難しくなっていることが分かった。しかし、これは新しい学習指導要領で、小学校において英語が教科化されたことと関係していると思う。そのようなことを踏まえると、英語の学習は難しそうだ、大変そうだと思うのではなく、ある程度、子供たちは英語の基礎ができているという前提の下、子供たちが学習したくなるような教科書を選ぶ必要があるなど思う。

大熊教育長 確かにそうである。
ほかにあるか。願います。

岡村委員 どの教科書も学習の仕方を示すなど、生徒が学習しやすくなるような工夫が見られているが、その中で、三省堂がすごく読み応えがある長文を掲載したり、教育出版は3年で定型文の手法を使うなど、英語が得意な人がつまらなくなるような工夫をしていると思う。
すごく差が出てきているかなという気がしてならない。

大熊教育長 それはあるかもしれない。
ほかにあるか。どうぞ。

浅野委員 教科書を一通り読んでみて、例えばビジュアルと文字のバランスとか、日本語の説明と英語のバランスとか、あるいは取り上げられている素材の面白さとか、いろいろ勘案してみると、私としては光村と三省堂が非常にいいなという印象を持っている。

2つ、どちらもいいと思うが、違いを言ううとすると、三省堂のほうがより文法説明が本格的というのか、ちょっとよく見方が分からないが、しっかりとした形で説明がされていると思う。だから、そ

の分、例えば1人で勉強する分には三省堂はとてもいいテキストになっているのかなど。先ほど、コロナ禍の下で一人で学習することの重要さと教育長は言ったが、その点から言うと、文法のまとめのところにおいては、三省堂のほう扱いやすいのかなという印象を持った。

あわせて、一つ質問させていただいていいか。

大熊教育長 どうぞ。

浅野委員 選定資料のほうに、三省堂のところを見てみると、言語材料の配列に配慮が見られるということで、1年時で、現在、過去、未来をやる、2年で現在完了形、1年生で過去をやるというのは、私の世代から見ると随分早いなという感じであるが、わざわざこう書いているということは、私も教科書を見ながらあれっと思ったが、配置とかペースに、教科書ごとに違いがある。素材の並べ方。

大熊教育長 僕もその点、調べてみたが、英語の場合は完璧にそういうことが分かれていないで、教科書の流れの中で学ぶものは決まっているということが実はあるようである。

浅野委員 どの教科書を見ても、この文法事項がこの順番に出てくるという形には今はなっていない。そこも一つ考慮すべきポイントかなと思った。
以上である。

大熊教育長 こんなことを言ったら、教科書選定がうまくできなくなってしまうが、新しい教科書に変えるときは、それなりに理由をしっかりとしないと、今まで学んだことの積み上げが、教科書を変えることによってできなくなる可能性はあるということは認識している。
ちなみに、今使っている教科書は三省堂である。
ほかにあるか。どうぞ。

鮎川教育長
職務代理者 先ほど浅野委員の御質問で、主体的・対話的で深い学びという点での特徴のある教科書ということで、選定調査委員長の御回答では、三省堂にはじっくり読ませたいテーマの教材が掲載されていると

いうことだった。

選定調査資料にも、そのとおり書かれていて、特に2年のMy Dream、また、3年生のI Have a Dreamは、キング牧師の有名なスピーチで、世界中で愛されている文かと思うが、小金井のこれからを担う中学生たちにはぜひ読んで考えてほしい教材だと考えた。

先ほど、教育長から、現在、小金井市の中学校の英語の教科書は三省堂を採用しているということで、現行の教科書にもこれらの作品は記載されている。小金井市の中学生たちには、引き続きこのようなじっくりと時間をかけて読んでほしい英文に取り組んでほしいと思っている。三省堂の教科書がよいと思っているが、先ほど浅野委員のお話にもあったが、光村の英文もとてもよい教材があると思っている。この点も最後に申し添える。

以上である。

大熊教育長

甲乙つけ難いという認識ではあるが、今の教科書に引き続いて、継続してしっかりと学んでもらいたいという意味を込めて、三省堂の教科書にしたいが、いかがか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長

それでは、外国語の教科書は三省堂に決定する。
次に、道徳の説明をお願いします。

山中校長

それでは、道徳の教科用図書の調査研究報告をする。
道徳は全部で7社になる。

特別の教科道徳は、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要になる。7社とも生徒が自己を見つめ、生き方についての考えを深める学習ができるような工夫がなされていた。

東京書籍の教科用図書についてである。1、資料は、作家、書籍編集委員、生徒作文など多岐にわたっていた。2、心情円や、「自分の学びを振り返ろう」を活用でき、ホワイトボードなどの端末付録が充実していた。3、「ACTION」が話し合い活動に活用しやすいなどの特徴があった。

教育出版の教科用図書についてである。1、雑誌、新聞記事、コラム、エッセイなどから、中学生が考えやすい資料が掲載されてい

た。2、「学びリンク」でICTによる学習に取り組むことができるようになってきている。3、どのテーマもバランスよく取り上げられていて、学年に合った構成、配列になっているなどの特徴があった。

光村図書の教科用図書についてである。1、編集委員が作成した文章が多く、中学生にとって読みやすく考えやすい資料が多いことが分かった。2、いじめ防止、生命の尊さを扱う教材が充実している。3、発達段階に応じた分量で、学年が上がるにつれて社会や自立についての内容が多くなっているなどの特徴があった。

日本文教出版の教科用図書についてである。1、学校生活で起こりそうな事象を取り上げていて、生徒が自己のこととして考えやすいことが分かる。2、ロールプレイの課題や、その方法が掲載されていることがある。3、比較的短い文章の教材が多く、思考するための課題を短く表現しているなどの特徴があった。

学研みらいの教科用図書についてである。1、SNSなど、インターネット上で問題になっている事象を教材としているので、生徒自身のこととして考えやすいことが分かる。2、スポーツ選手やエンターテインメントの内容が多く、生徒の興味を引く教材が多いことである。3、各単元のタイトルが視点別に4色に色分けされているなどの特徴があった。

廣済堂あかつきの教科用図書についてである。1、生徒の身近に起こりそうな出来事を教材としているため、自分自身のこととして考えやすいということである。2、教材の最後に、「考える、話し合う」活動が設定されているため、考えを深めることができるということである。3、別冊ノートがあり、気持ちを記入するページと補助資料がついているなどの特徴があった。

最後である。日本教科書の教科用図書についてである。1、雑誌、新聞記事、コラム、エッセイなどが教材として掲載されていた。2、やや難しい教材もあるが、考えを深められる教材が多くあった。3、巻末に自己評価シートが収録されているなど特徴があった。

以上で報告を終わる。

大熊教育長

ありがとう。

御質問はあるか。どうぞ。

福元委員

「考え、議論する道徳」ということが求められているが、教科書

ではどのような工夫がされているか。

山中校長 どの教科書も学習の流れや示し方の発問の仕方が工夫はされていた。

特徴的なものとしては2社、1社目が廣濟堂あかつきである。廣濟堂あかつきでは、教材ごとに「考え・話し合う」を設けている。その中で、学習の手がかりから考えを広げる、深めると示している。学習の流れがスムーズになるような工夫がされていた。

もう一社、光村図書では、教材の最後に、「考えよう」、「見方を変えて」、「つなげよう」などが示され、考えを深めるための工夫がされていた。

以上である。

大熊教育長 ほかにあるか。

岡村委員 全ての教科書が、いじめや、SNSや、情報モラルという今日的な課題について書いてあるが、特に先生方が特徴があるな、いいなと思った教科書はどれか。

山中校長 どの教科書も今日的な課題の扱いには力を入れている。2社あり、一つは光村図書である。光村図書では、広げよう、人と人との関係づくりを、各学年2か所掲載し、様々な切り口から人間関係づくりについて取り扱っていた。

もう一社は学研みらい。学研みらいでは、生命尊重を重点テーマとして、メンタルトレーニングや自己肯定感についても取り上げることで、いじめ防止につなげるようなつくりになっていた。

以上である。

大熊教育長 ほかにあるか。

なければ協議に入りたい。御意見をどうぞ。お願いする。

浅野委員 中学校用の道徳の教科書については、2年前に、我々、議論の上、採択をしている。その際、先ほど福元委員のお話の中にも出てきたが、我々としては、大熊教育長の下、考える道徳、議論する道徳ということを目指して慎重な議論を重ねてきたわけである。

確認したいが、今の御説明でも、ある程度、了解したところもあるが、今回、光村の新しい教科書において、考える道徳、議論する道徳という原則、我々が評価したところの。それが毀損されているとか、弱められたりとか、変えられたりしているということはないと私は見て理解しているが、そういう理解でいいか。

山中校長 それで構わない。

浅野委員 もしそうだとすると、採択して2年ぐらいか、まだ変える判断をするのは少し早いなど。このまま光村図書の教材を使うのがいいのではないかなと私自身は思うが、いかがか。

大熊教育長 ほかの方、いかがか。どうぞ。

鮎川教育長
職務代理者 私も浅野委員と同じ意見である。光村だけでなく、ほかの教科書も、順序の入替え、資料の変更等があったが、大幅な変更ではなかった。中学校の先生方は、現在、光村図書の教科書を基に授業研究を推進してくださっているところだと思う。2年目といっても、まだ1年とちょっと、一生懸命研究してくださったり、教材の理解も深まってきたところだと思うので、引き続き光村図書がよいと思っている。

以上である。

福元委員 選定調査資料にも、「中学生が考えやすい話題が多い」、「話し合い活動に活用しやすい」、「単元の配列が工夫されていて活用しやすい」など、光村図書の教科書を使用したよさが表れているように思える。

大熊教育長 その辺、聞いてもいいか。

福元委員 調査研究資料での文章である。少なくとも先生方が入って、そして研究された文章であるので、評価されているんだと思っていいような気がする。

大熊教育長 2年前、道徳の教科書を選定するときに、考える道徳、議論する

道徳を実現できる教科書として、価値を押しつけない、子供たちが主体的に自分の今を考えられるのはどれかということで議論を重ねて光村を選んできた経緯がある。その点では、今回、選定資料を見ても大幅な変更があるわけではないので、引き続き光村図書の教科書を選定したいが、いかがか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長 それでは……。

福元委員 ちょっと、その前に。念のために確認をしておきたい。この1年数か月、光村図書の道徳の教科書を使用している中で、学校の先生方から使いづらいとか、それから、小金井の子供には向いていないとかいう声は特に出していないか。どうか。

山中校長 そのような声は一切上がっていない。

福元委員 ありがとう。

大熊教育長 そういう意見はない……。

木下校長 私のほうも、そういう声は聞いていない。

大熊教育長 それでは、道徳の教科書は光村図書でよろしいか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長 道徳の教科書は光村図書に決定する。

それでは、長くなっただが、令和3年度小金井市立中学校使用教科書の採択については、国語が光村図書、書写が三省堂、地理が帝国書院、歴史が帝国書院、公民が帝国書院、地図が帝国書院、数学が東京書籍、理科が啓林館、音楽が教育芸術社、器楽が教育芸術社、美術が光村図書、保健体育が東京書籍、技術が開隆堂、家庭が開隆堂、外国語が三省堂、道徳が光村図書と決定する。

以上で令和3年度中学校使用教科書の選定を終了する。ありがとう

う。

以上で、議案第26号、令和3年度使用中学校教科用図書の採択についてを終了する。

次に、日程第3、報告事項を議題とする。

1、その他になる。

部局から報告があれば願います。

大津学校
教育部長

特になし。

大熊教育長

今後の日程について、事務局から報告願う。

中島庶務係長

それでは、教育委員会の今後の日程について御報告する。

第8回教育委員会定例会が、8月25日、火曜日、午後1時30分から、第二庁舎8階801会議室で開催する。

続いて、第9回教育委員会定例会が、10月13日、火曜日、午後1時30分から、同会議室で開催する。

続いて、第10回教育委員会定例会が、11月10日、火曜日、午後1時30分から、同会議室で開催する。

それぞれ御出席のほど、よろしく願います。

今後の日程は以上となる。

大熊教育長

次に、日程第4を議題とするところであるが、本案は人事に関する事件で、小金井市教育委員会会議規則第10条第1項に規定する事件に該当するため、非公開の会議が相当と判断するが、委員の皆様、御異議はないか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長

全員異議なしと認め、秘密会を開会する。

準備のため、休憩する。

傍聴人の方におかれては席を外していただくことになるので、よろしく願います。

休憩 午後5時59分

再開 午後6時12分

大熊教育長 再開する。

以上で本日の日程は全て終了した。これをもって令和2年第7回教育委員会定例会を閉会する。

閉会 午後6時13分